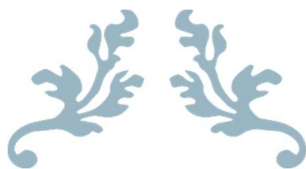


中学生のための

国語読解の土台

本文を根拠に、ことばで考える練習



はじめに

国語の読解では、「なんとなく分かる」だけでは答えにくい問題があります。文章を読んでいるときには分かった気がしていても、いざ「それはどういうことですか」「なぜですか」「本文の内容に合うものを選びなさい」と聞かれると、答え方に迷うことがあります。

そのときに大切なのは、感覚だけで答えようとするのではなく、本文の言葉に返ることです。どの言葉が何を指しているのか。前後の文はどのようなにつながっているのか。筆者は何を言いたいのか。人物はどのような気持ちでその行動をしたのか。こうしたことを、一つずつ本文を根拠にして考えていきます。

この教材では、国語の読解に必要な基本の力を、段階を追って練習します。指示語、接続語、段落の役割、理由と具体例、心情読解、記述答案、選択肢、要約。どれも、国語を読むうえで土台になるものです。

国語は、特別な才能だけで決まるものではありません。文章のどこを見るか、どのように考えるか、どのように答えるかを少しずつ身につけていけば、読む力は育っていきます。

この冊子を通して、本文をていねいに読み、根拠をもって考え、自分のことばで答える力を育てていきましょう。

この教材の使い方

一 まず本文を読む

いきなり問いに答えようとせず、まず本文を読みます。分からない言葉や気になる表現があっても、最初は文章全体の流れをつかむことを大切にしましょう。

二 問いを読む

問いでは、何を聞かれているのかを確認します。「なぜ」「どのようなこと」「どのような気持ち」「本文の内容に合うもの」など、聞かれ方に注目します。

三 本文に戻る

答えを考える前に、本文のどこを見ればよいか探します。指示語なら前に戻ります。接続語なら前後を比べます。心情なら、人物の行動や会話を確認します。

四 答えを書く

記述問題では、指定された字数に合わせて答えます。短すぎると必要な内容が足りないことがあります。長すぎると、不要な内容まで入ってしまうことがあります。問いに必要な要素を入れながら、文の形を整えましょう。

五 解説を読む

答え合わせでは、正解か不正解かだけで終わらせないようにします。なぜその答えになるのか、どの部分が根拠になるのか、どのような答え方ならよいのかを確認します。

六 自己採点チェックを使う

記述問題では、模範解答と一字一句同じでなくてもかまいません。大切な要素が入っているか、問いに合う形で答えられているかを確認しましょう。

目次

第一章 指示語をつかむ

「これ」「それ」「そのこと」などが何を指しているかを、本文に戻って考える練習をします。

第二章 接続語で流れを読む

「しかし」「だから」「たとえば」などを手がかりに、前後の文の関係を読み取ります。

第三章 段落の役割を考える

それぞれの段落が、文章全体の中でどのような働きをしているかを考えます。

第四章 理由と具体例を見分ける

筆者の考え、理由、具体例を分けて読み、文章の中心をつかみやすくします。

第五章 物語文の心情を読む

人物の行動、会話、表情、場面の変化から、心情を本文に基づいて考えます。

第六章 説明文の中心をつかむ

文章全体で筆者が最も伝えたいことを読み取る練習をします。

第七章 記述答案の型を身につける

「なぜ」「どのようなこと」「どのような気持ち」など、問いに合った答え方を練習します。

第八章 選択肢のまぎらわしさを見抜く

本文に合う選択肢と、本文からずれている選択肢を見分ける練習をします。

第九章 短く要約する

文章の中心をつかみ、具体例を整理して、短くまとめる練習をします。

第十章 総合問題

これまで学んだ読み方を使って、説明文と物語文の問題に取り組みます。

学習の進め方

この教材は、第一章から順番に進めると、読解の土台が少しずつ積み上がるように作られています。

第一章から第四章では、文章の仕組みを読む力を育てます。指示語、接続語、段落、理由と具体例を読むことで、文章がどのように組み立てられているかが見えやすくなります。

第五章では、物語文の心情を読みます。人物の気持ちを勝手に想像するのではなく、本文の行動や会話を根拠にして考えます。

第六章から第九章では、説明文の中心、記述答案、選択肢、要約を扱います。文章を読むだけでなく、問いに合わせて答える力を育てます。

第十章では、これまでの内容をまとめて使います。最初は難しく感じても、本文に戻りながら一問ずつ考えれば大丈夫です。

記述問題に取り組むときの注意

記述問題では、模範解答とまったく同じ言葉でなくてもよい場合があります。ただし、必要な内容が入っていないければ、よい答えにはなりません。

たとえば、「なぜですか」と聞かれているのに、「〽こと。」で終わっていると、理由の形になっていないことがあります。「どのような気持ちですか」と聞かれているのに、出来事だけを書いてしまうと、心情の答えになりません。

答えを書いたら、次の三つを確認しましょう。

- ・ 問いに合う形で答えているか。
- ・ 本文の根拠にもとづいているか。
- ・ 必要な要素が入っているか。

国語の記述では、「だいたい分かる」ことを、「相手に伝わる形にする」ことが大切です。本文を読み、自分の頭で考え、ことばの形を整えていきましょう。

選択問題に取り組むときの注意

選択問題では、本文に出てきた言葉が入っているだけで正解とは限りません。一部だけ本文に合っているとしても、後半で本文にないことを加えている選択肢があります。特に、次のような表現には注意しましょう。

- ・「必ず」
- ・「完全に」
- ・「まったく」
- ・「すべて」
- ・「だけ」
- ・「いつも」

これらの言葉が入っている選択肢は、本文より強く言いすぎていることがあります。もちろん、必ず間違いとは限りませんが、本文に本当にそこまで書かれているかを確認する必要があります。

選択肢を選ぶときは、「なんとなく近い」ではなく、「本文のこの部分に合う」と言えるものを選びましょう。

要約に取り組むときの注意

要約では、本文の内容を短くまとめます。短くするためには、何を残し、何を削るかを考える必要があります。

具体例は、削れることが多いです。たとえば、本文に「鉛筆を削る」「ノートをそろえる」「筆箱を整える」と書かれていても、中心が「道具を整えることは学びを整えることにつながる」という内容なら、具体例をすべて入れる必要はありません。

一方で、筆者の中心となる考えは残します。理由の大事な部分も残します。要約は、ただ短い文を作ることではありません。本文の意味を変えずに、大切な内容を残すことです。

※先生・保護者の方へ

この教材は、中学生の国語読解に必要な基礎を、本文に根拠を求めながら丁寧に積み上げることが目的としています。

国語が苦手な生徒さんの中には、文章をまったく読めていないのではなく、「どこを見ればよいか」「どう答えればよいか」がまだ整理されていないだけの場合があります。指示語、接続語、段落の役割、理由と具体例、心情、記述の文末、選択肢のズレなどを一つずつ扱うことで、読解の手がかりが見えやすくなります。

指導の際には、正解か不正解かだけでなく、どこまでは読めているのか、どの要素が足りないのかを確認すると効果的です。特に記述問題では、模範解答と同じ表現でなくても、必要な要素が入っていれば評価できる場合があります。

この教材が、文章を読むことを「勘」だけに頼らず、本文を根拠にして考える練習の場となれば幸いです。

それでは、スタートしましょう！

第一章 指示語をつかむ

この章で学ぶこと

文章を読んでいると、「これ」「それ」「あれ」「このこと」「そのこと」などの言葉が出てきます。これらは、前に出てきた言葉や内容を指し示す言葉です。このような言葉を、**指示語**といいます。

指示語が何を指しているか分からないまま読み進めると、文章の内容があいまいになります。反対に、指示語が指す内容を正確につかめると、文章の流れがよく見えるようになります。

指示語を見つけたら、まず本文の少し前に戻ってみましょう。多くの場合、指示語の答えはその前に書かれています。ただし、指示語は一つの言葉だけを指すとは限りません。前の文全体や、前に述べられた内容全体を指していることもあります。この章では、指示語が何を指しているかを、本文を根拠にして考える練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

朝、家を出るとき、空には厚い雲が広がっていた。私は傘を持っていくかどうか少し迷ったが、荷物が増えるのがいやで、結局持たずに出かけた。しかし、駅に着くころには雨が降り始めた。そのことを後悔しながら、私はかばんを頭の上にのせて走った。

【問】

傍線部「そのこと」とは、どのようなことですか。三十字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、「そのこと」という指示語を見つけます。「そのこと」は、前に出てきた内容を指しています。そこで、傍線部の前を見てみましょう。

本文には、「私は傘を持っていくかどうか少し迷ったが、荷物が増えるのがいやで、結局持たずに出かけた。」とあります。雨が降り始めたあとに後悔しているので、後悔している内容は、ただ「迷ったこと」ではありません。また、「荷物が増えるのがいやだったこと」だけでもありません。

中心は、**雨が降りそうだったのに、傘を持たずに出かけたこと**です。

【模範解答】

雨が降りそうだったのに、傘を持たずに出かけたこと。

【別解例】

傘を持っていくか迷ったのに、結局持たずに出たこと。

【自己採点チェック】

- ・「傘」にふれているか。
- ・「持たずに出かけた」という内容が入っているか。
- ・「雨が降ったこと」だけを答えていないか。

練習問題一 短い文で確認する

次の各文を読んで、傍線部の指示語が何を指しているか答えなさい。

(一)

【本文】

弟は、昨日から楽しみにしていた遠足に出かけた。朝早く起きて、自分で弁当をかばんに入れ、何度も集合時間を確認していた。その様子を見て、母は思わず笑った。

【問】

「その様子」とは、どのような様子ですか。三十字以内で説明しなさい。

(二)

【本文】

私は、友人に借りた本を読み終えると、すぐに感想を書いた。おもしろかった場面や、心に残った言葉を忘れないようにするためにそうすることで、読んだ内容が自分の中に残りやすくなる。

【問】

「そうすること」とは、どのようなことですか。二十五字以内で説明しなさい。

(三)

【本文】

町の小さな図書館には、新しい本がたくさんあるわけではない。けれども、司書の人が一冊一冊をよく知っていて、読む人に合った本をすすめてくれる。私は、そこにこの図書館のよさがあると思う。

【問】

「そこ」とは、どのようなところですか。四十字以内で説明しなさい。

練習問題二 少し長い文章で考える

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、小学生のころから作文が苦手だった。何を書けばよいのか分からず、原稿用紙を前にすると、いつも手が止まってしまった。

ある日、先生が「まずは、今日あったことを一つだけ書いてみよう」と言った。私は、その日の朝に見た犬のことを書いた。駅前で、白い犬が飼い主を見上げて歩いていた。ただそれだけのことだったが、書き始めると、犬のしっぽの動きや、飼い主の歩く速さまで思い出された。

そのとき私は、作文とは、特別な出来事を書くことだけではないのだと気づいた。自分が見たものを、もう一度よく見つめ直すこと。それもまた、作文の大切な始まりなのだった。

【問一】

傍線部「それだけ」とは、どのようなことですか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

【問二】

傍線部「それ」とは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、作文では必ず特別な出来事を書かなければならないと考えるようになった。

イ 筆者は、身近な出来事を見つめ直すことも作文の始まりになると気づいた。

ウ 筆者は、作文が苦手だったので、犬について書くことをやめた。

エ 筆者は、先生に言われて、作文よりも観察の勉強を始めた。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

昼休みになると、教室は急ににぎやかになる。弁当を広げる人、友人の席へ移動する人、外へ遊びに行く人。それぞれが、自分の時間を始める。

私はたいてい、自分の席で本を読んでいる。別に、だれとも話したくないわけではない。ただ、午前中の授業で頭がいっぱいになったあと、少しだけ静かな時間がほしくなるのだ。

ある日、隣の席の佐伯さんが、「何を読んでいるの」と声をかけてきた。私は少し驚いて、本の表紙を見せた。佐伯さんは、「それ、前に読んだことがある」と言っ、自分の好きな場面を話し始めた。

私は、その本を一人で読んでいるつもりだった。けれども、佐伯さんの話を聞いているうちに、同じ本でも、人によって心に残るところが違うのだと分かった。そ

のことが、私には少しおもしろかった。

次の日、私は読み終えた本を持って、佐伯さんに話しかけた。「昨日の場面、もう一度読み返してみたよ。」そう言うと、佐伯さんはうれしそうに笑った。

本を読む時間は、私にとって静かな時間だった。けれども、だれかと同じ本について話すことで、静かな時間の中に、別の広がりが生まれることもある。私は、それを初めて知った気がした。

【問一】

「それぞれが、自分の時間を始める」とありますが、「それぞれ」とは、どのような人たちを指していますか。本文の内容をもとに三十五字以内で説明しなさい。

【問二】

「それ、前に読んだことがある」とありますが、「それ」とは何を指していますか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

【問三】

傍線部「そのこと」とは、どのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。

【問四】

傍線部「それ」とは、どのようなことですか。五十字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 私は、昼休みに本を読むのは友人と話すためだと考えていた。

イ 私は、佐伯さんに声をかけられ、本を読むことが嫌いになった。

ウ 私は、同じ本について人と話すことで、読書の時間に新しい広がり生まれると感じた。

エ 私は、佐伯さんと話したことで、昼休みには本を読まないほうがよいと思った。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

遠足を楽しみにし、朝から自分で準備を進めている様子。

【解説】

「その様子」は、直前の内容を指しています。弟は「朝早く起きて」「自分で弁当をかばんに入れ」「何度も集合時間を確認して」います。つまり、遠足を楽しみにして準備している様子です。

【自己採点チェック】

- ・「遠足を楽しみにしている」ことが入っているか。
- ・「自分で準備している」ことが入っているか。
- ・「母が笑ったこと」と答えていないか。

(二)

【模範解答】

読み終えた本の感想をすぐに書くこと。

【解説】

「そうすること」は、前の文の行動を指しています。本文では、「友人に借りた本を読み終えると、すぐに感想を書いた」とあります。したがって、「そうすること」は、読み終えた本の感想をすぐに書くことです。

【自己採点チェック】

- ・「感想を書く」が入っているか。
- ・「すぐに」という内容が入っているか。
- ・「本を読むこと」だけになっていないか。

(三)

【模範解答】

司書の人の本をよく知り、読む人に合った本をすすめてくれるところ。

【解説】

「そこ」は場所を表しているように見えますが、ここでは単なる場所ではなく、この図書館のよさがある部分を指しています。直前には、「司書の人が一冊一冊をよく知っていて、読む人に合った本をすすめてくれる」とあります。この内容全体をまとめて答えます。

【自己採点チェック】

- ・「司書の人」にふれているか。
- ・「読む人に合った本をすすめる」が入っているか。
- ・「町の小さな図書館」とだけ答えていないか。

練習問題二

問一

【模範解答】

白い犬が飼い主を見上げて歩いていた

【解説】

「それだけ」は、直前に書かれた内容を指しています。ここでは、作文に書いた内容である「駅前で、白い犬が飼い主を見上げて歩いていた」ことを指しています。設問は「本文中から二十字以内で抜き出さない」なので、本文中の「白い犬が飼い主を見上げて歩いていた」を抜き出します。

問二

【模範解答】

自分が見たものを、もう一度よく見詰め直すこと。

【解説】

「それ」は、直前の文を指しています。直前には、「自分が見たものを、もう一度よく見詰め直すこと。」とあります。これが「作文の大切な始まり」だと述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「自分が見たもの」が入っているか。
- ・「もう一度よく見詰め直す」が入っているか。
- ・「犬のことを書くこと」だけになっていないか。

問三

【答え】

イ

【解説】

本文では、筆者は「作文とは、特別な出来事を書くことだけではない」と気づいています。そして、「自分が見たものを、もう一度よく見詰め直すこと」も作文の始まりだと考えています。したがって、イが正解です。

実戦問題

問一

【模範解答】

弁当を広げる人や、友人の席へ移動する人、外へ遊びに行く人たち。

【解説】

「それぞれ」は、直前に並べられた人たちを指しています。本文には、「弁当を広げる人、友人の席へ移動する人、外へ遊びに行く人」とあります。この三つをまとめて答えます。

【自己採点チェック】

- ・ 三種類の人たちにふれているか。
- ・ 「昼休みの生徒たち」だけで終わっていないか。
- ・ 本文にない人を加えていないか。

問二

【模範解答】

本

【解説】

佐伯さんは、筆者が見せた本の表紙を見て、「それ、前に読んだことがある」と言っています。したがって、「それ」は筆者が読んでいた本を指しています。

【別解例】

読んでいた本

※十字以内であれば、こちらもよいです。

問三

【模範解答】

同じ本でも、人によって心に残るところが違うということ。

【解説】

「そのこと」は、直前の内容を指しています。直前には、「同じ本でも、人によって心に残るところが違うのだと分かった」とあります。したがって、その内容をまとめて答えます。

【別解例】

同じ本を読んでも、心に残る場面は人によって違うということ。

【自己採点チェック】

- ・ 「同じ本」にふれているか。
- ・ 「人によって違う」が入っているか。

- ・「佐伯さんが話しかけてきたこと」だけになっていないか。

問四

【模範解答】

だれかと同じ本について話すことで、一人で読む時間にも新しい広がりが生まれること。

【解説】

最後の「それ」は、直前に述べられた内容を指しています。本文では、「だれかと同じ本について話すことで、静かな時間の中に、別の広がりが生まれることもある」と述べられています。筆者は、それを初めて知ったと感じています。

【別解例】

同じ本について人と話すことで、静かに読む時間にも別の広がりが生まれること。

【自己採点チェック】

- ・「同じ本について話す」が入っているか。
- ・「別の広がりが生まれる」が入っているか。
- ・「本を読むことは静かだ」という内容だけになっていないか。

問五

【答え】

ウ

【解説】

本文の最後で、筆者は「だれかと同じ本について話すことで、静かな時間の中に、別の広がりが生まれることもある」と述べています。したがって、ウが正解です。アは、筆者が昼休みに本を読む理由を取り違えています。筆者は、友人と話すためではなく、静かな時間がほしくて本を読んでいた。イは、「本を読むことが嫌いになった」とある点が本文に合いません。エは、「本を読まないほうがよい」とある

点が本文に合いません。

○この章のまとめ

指示語を見つけたら、すぐに答えようとせず、まず本文の前に戻りましょう。指示語が指すものは、一つの言葉の場合もあれば、前の文全体や内容全体の場合もあります。

大切なのは、なんとなく考えることではありません。本文の言葉を根拠にして、「この指示語は、ここを指している」と確かめることです。

指示語を正確につかむ力は、国語の読解すべての土台になります。

第二章 接続語で流れを読む

この章で学ぶこと

文章の中には、「だから」「しかし」「たとえば」「つまり」「また」などの言葉が出てきます。これらは、文と文、段落と段落の関係を示す言葉です。このような言葉を、**接続語**といいます。

接続語を見ると、文章の流れが分かりやすくなります。たとえば、「しかし」が出てきたら、その前とは反対の内容や、別の見方が述べられることが多いです。「たとえば」が出てきたら、前に述べた内容を分かりやすくするための具体例が続きます。接続語は、ただ空欄に入れるための言葉ではありません。筆者がどのように考えを進めているのか、人物の気持ちや場面がどのように変わっているのかを知る手がかりになります。

この章では、接続語を手がかりにして、文章の流れを正確に読む練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、朝早く起きるのがあまり得意ではない。目覚まし時計をかけても、すぐに起きられないことが多い。しかし、遠足の日だけは違った。その日は、目覚まし時計が鳴る前に自然と目が覚めた。

【問】

傍線部「しかし」の前後で、内容はどのように変わっていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【解き方】

「しかし」は、前の内容と反対の内容や、ちがう内容が続けるときに使われます。まず、「しかし」の前を見てみましょう。前には、筆者が朝早く起きるのが得意では

ないことが書かれています。

次に、「しかし」の後を見ます。後には、遠足の日だけは目覚まし時計が鳴る前に自然と目が覚めたことが書かれています。つまり、ふだんは早起きが苦手だが、遠足の日自分から早く起きられた、という変化があります。

【模範解答】

ふだんは早起きが苦手だが、遠足の日には自然に目が覚めた。

【別解例】

いつもは朝早く起きられないが、遠足の日だけは早く起きられた。

【自己採点チェック】

- ・「ふだんは早起きが苦手」という内容が入っているか。
- ・「遠足の日には自然に目が覚めた」という内容が入っているか。
- ・「しかし」が逆の内容をつなぐことを意識できているか。

練習問題一 接続語の働きを確認する

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

私は、漢字を覚えるのが苦手だった。何度書いても、次の日には忘れてしまうことが多かった。そこで、漢字だけをばらばらに覚えるのではなく、短い文の中で使いながら覚えることにした。

【問】

傍線部「そこで」は、前後の内容をどのようにつないでいますか。三十字以内で説明しなさい。

(二)

この公園には、大きな遊具はない。広いグラウンドもない。しかし、木の下には静かに本を読めるベンチがあり、夕方になると近所の人々が自然に集まってくる。

【問】

傍線部「しかし」の後には、どのような内容が述べられていますか。三十五字以内で説明しなさい。

(三)

読書には、知らない世界にふれる楽しさがある。たとえば、昔の人の暮らしを描いた物語を読むと、自分とは違う時代の考え方や生活を想像することができる。

【問】

傍線部「たとえば」の後の文は、前の文に対してどのような働きをしていますか。三十五字以内で説明しなさい。

練習問題二 空欄に入る接続語を考える

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、ノートをきれいに書くことが大切だと思っていた。色を使い分け、文字の大きさもそろえ、見た目には分かりやすいノートを作っていた。

(ア)、テスト前に見返してみると、内容があまり頭に残っていないことに気づいた。きれいにまとめることに気を取られ、授業中に先生が強調した理由や、自分が疑問に思ったことを書き残していなかったからだ。

それから私は、ノートの書き方を少し変えた。もちろん、後で読めるように整えることは大事だ。(B)、それ以上に、授業中に考えたことや、分からなかったところを残すようにした。

【問一】

空欄△に入る接続語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア だから

イ しかし

ウ たたとえば

エ さらに

【問二】

空欄 ㊦に入る接続語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア つまり

イ ところが

ウ けれども

エ そして

【問三】

筆者は、ノートの書き方についてどのように考えるようになりましたか。四十五字以内で説明しなさい。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、休み時間になると、すぐに友人のところへ行って話すことが多かった。話していると楽しいし、何もしていない時間が少し不安に感じられたからだ。いつもだれかと一緒にいることが、学校でうまく過ごすために必要なのだと思っていた。ある日、図書室へ返す本があったので、休み時間に一人で教室を出た。廊下は思ったより静かで、窓の外では、校庭の木が風に揺れていた。私は本を返したあと、すぐに教室へ戻ろうとした。しかし、図書室の奥にある小さな机が目に入り、少しだけ座ってみることにした。

そこでは、だれかと話す必要がなかった。何かを説明する必要も、無理に笑う必要もなかった。私は、机の上に置かれていた詩集を開き、短い詩を一つ読んだ。意味がすぐに分かったわけではない。それでも、言葉の響きがしばらく心に残った。次の休み時間も、私は図書室へ行った。友人と話す時間がいやになったわけではない。

い。むしろ、友人と話す時間も前より楽しく感じられるようになった。一人で静かに過ごす時間があることで、人と話す時間にも少し余裕が生まれたのだと思う。私はそれまで、一人でいる時間を、友人がいない寂しい時間のように考えていた。けれども、今は少し違う。一人でいる時間は、自分の気持ちを整え、また人と向き合うための大切な時間でもあるのだ。

【問一】

傍線部「しかし」の前後で、筆者の行動はどのように変わっていますか。四十字以内で説明しなさい。

【問二】

傍線部「それでも」は、どのような内容をつないでいますか。四十五字以内で説明しなさい。

【問三】

傍線部「むしろ」の後には、どのような内容が述べられていますか。四十字以内で説明しなさい。

【問四】

傍線部「けれども」の前後で、筆者の考えはどのように変わっていますか。五十字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、一人でいる時間を知ってから、友人と話すことを避けるようになった。
イ 筆者は、図書室で過ごすうちに、一人の時間にも大切な意味があると気づいた。
ウ 筆者は、詩集の意味がすぐに分からなかったので、読むことをやめてしまった。
エ 筆者は、学校でうまく過ごすには、いつも友人と一緒にいるべきだと考え続けた。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

漢字を忘れやすい問題への対応として、覚え方を変えたこと。

【解説】

「そこで」は、前に述べた問題や状況を受けて、それに対する対応や行動を示すときに使われます。ここでは、漢字を何度書いても忘れてしまうという問題を受けて、短い文の中で使いながら覚えることにした、という流れになっています。

【自己採点チェック】

- ・「漢字を忘れやすい」という問題にふれているか。
- ・「覚え方を変えた」という対応が入っているか。
- ・「そこで」が対応や行動につながる語だと分かっているか。

(二)

【模範解答】

大きな遊具はないが、静かに過ごせ人も集まるよさがあること。

【解説】

「しかし」は、前の内容とは違う内容が続けるときに使われます。前には、大きな遊具や広いグラウンドがないことが書かれています。後には、静かに本を読めるベンチがあり、近所の人が集まるという、この公園の別のよさが述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「大きな遊具などはない」という前の内容をふまえているか。
- ・「静かに過ごせる」「人が集まる」などのよさが入っているか。
- ・「しかし」の後に、前とは違う評価が来ることを意識できているか。

(三)

【模範解答】

読書で知らない世界にふれられることを、具体例で説明している。

【解説】

「たとえば」は、前に述べた内容を分かりやすくするために、具体例を示すときに使われます。ここでは、読書によって知らない世界にふれられるという内容を、昔の人の暮らしを描いた物語の例で説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「読書で知らない世界にふれる」という前の内容が入っているか。
- ・「具体例で説明している」という働きが入っているか。
- ・後の文を、前の文と無関係に読んでいないか。

練習問題二

問一

【答え】

イ

【解説】

空欄㍮の前では、筆者がきれいなノートを作っていたことが述べられています。後では、テスト前に見返しても内容が頭に残っていなかったことが述べられています。前後で内容が反対に近い関係になっているので、「しかし」が適切です。

問二

【答え】

ウ

【解説】

空欄㍹の前には、後で読めるようにノートを整えることも大事だとあります。後には、それ以上に、授業中に考えたことや分からなかったところを残すようにしたと

あります。前の内容を認めながら、より大切な内容を述べているので、「けれども」が適切です。

問三

【模範解答】

見た目を整えるだけでなく、考えたことや疑問も残すべきだと考えた。

【解説】

筆者は、はじめはノートをきれいに書くことが大切だと考えていました。しかし、テスト前に見返したとき、内容が頭に残っていないことに気づきました。そこで、見た目だけではなく、授業中に考えたことや疑問も残すように考え方を変えています。

【自己採点チェック】

- ・「見た目を整えるだけではない」という内容が入っているか。
- ・「考えたこと」「疑問」を残すことが入っているか。
- ・「ノートをきたなく書くべきだ」という意味になっていないか。

実戦問題

問一

【模範解答】

教室へ戻ろうとしたが、図書室の小さな机に少し座ってみた。

【解説】

「しかし」の前では、筆者は本を返したあと、すぐに教室へ戻ろうとしています。後では、図書室の奥にある小さな机が目に入り、少し座ってみることにしています。つまり、すぐ戻るつもりだった行動が、図書室で過ごす行動へ変わっています。

【自己採点チェック】

- ・「教室へ戻ろうとした」が入っているか。
- ・「図書室の机に座った」が入っているか。

- ・「しかし」の前後の変化として説明できているか。

問二

【模範解答】

詩の意味はすぐ分からなかったが、言葉の響きは心に残ったこと。

【解説】

「それでも」は、前の内容があるにもかかわらず、後の内容が成り立つことを示します。ここでは、詩の意味がすぐに分かったわけではない、という内容を受けながら、それでも言葉の響きが心に残った、と述べています。

【自己採点チェック】

- ・「意味はすぐ分からなかった」が入っているか。
- ・「言葉の響きが心に残った」が入っているか。
- ・前の内容を否定するだけの説明になっていないか。

問三

【模範解答】

一人の時間を持ったことで、友人と話す時間も前より楽しくなったこと。

【解説】

「むしろ」は、前に予想される内容とは反対に、より強く別の内容を述べるときに使われます。ここでは、図書室へ行くようになったことで友人と話す時間がいやになったのではなく、友人と話す時間も前より楽しく感じられるようになった、と述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「友人と話す時間」が入っているか。
- ・「前より楽しくなった」が入っているか。
- ・「友人と話すのがいやになった」と取り違えていないか。

問四

【模範解答】

一人の時間を寂しい時間ではなく、自分を整える大切な時間とも考えるようになった。

【解説】

「けれども」の前では、筆者は一人にいる時間を、友人がいない寂しい時間のように考えていたと述べています。後では、一人にいる時間を、自分の気持ちを整え、また人と向き合うための大切な時間でもあると考えるようになっていきます。

【自己採点チェック】

- ・「寂しい時間」という以前の考えが入っているか。
- ・「自分を整える大切な時間」という今の考えが入っているか。
- ・筆者が友人を不要だと考えたように書いていないか。

問五

【答え】

イ

【解説】

本文では、筆者が図書室で一人で過ごす時間を通して、一人にいる時間にも自分の気持ちを整え、人と向き合うための大切な意味があると気づいています。したがって、イが正解です。

アは、友人と話すことを避けるようになったという点が本文に合いません。ウは、詩集の意味がすぐに分からなかったあとも、言葉の響きが心に残っているので誤りです。エは、筆者の考えが最後まで変わっていないように述べている点が本文に合いません。

○この章のまとめ

接続語は、文章の流れを示す大切な手がかりです。「しかし」は前と違う内容、「だから」は理由から結果、「たとえば」は具体例、「つまり」は言い換えやまとめを示すことが多いです。

接続語を見つけたら、その言葉だけを見るのではなく、前と後の内容を比べてみましょう。前後の関係が分かると、筆者の考えの進み方や、人物の気持ちの変化が読み取りやすくなります。

接続語を読む力は、文章全体の流れを読む力につながります。

第三章 段落の役割を考える

この章で学ぶこと

文章はいくつかの段落に分かれています。一つ一つの段落には、それぞれ役割があります。たとえば、話題を示す段落、具体例を挙げる段落、理由を説明する段落、最後に考えをまとめる段落などがあります。

段落を一つずつ読むだけでは、文章全体の流れが見えにくいことがあります。大切なのは、「この段落には何を書いてあるか」だけでなく、「この段落は、文章全体の中でどのような働きをしているか」を考えることです。

たとえば、ある段落が具体例を述べているなら、それは何を分かりやすくするための具体例なのかを考えます。ある段落がまとめになっているなら、それまでの内容をどのように受けているのかを考えます。

この章では、段落ごとの内容と役割を考えながら、文章全体の流れを読む練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、あいさつは人と人との間に小さな道を作るものだと思う。朝、教室に入ったときに「おはよう」と言われるだけで、少し安心することがある。

(二) もちろん、あいさつをしたからといって、すぐに親しくなれるわけではない。声が小さかったり、相手が気づかなかったりすることもある。それでも、あいさつは「あなたがそこにいることに気づいています」という合図になる。

(三) だから、あいさつはただの習慣ではない。相手との関係を始めたり、続けたるするための、小さくても大切な言葉なのだ。

【問】

第二段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、第二段落に何が書かれているかを確認します。第二段落には、あいさつをしてもすぐに親しくなれるわけではないが、それでも相手に気づいているという合図になることが書かれています。

次に、第一段落と第三段落との関係を見ます。第一段落では、あいさつが人々との間に小さな道を作るものと述べています。第三段落では、あいさつは相手との関係を始めたり続けたりする大切な言葉だとまとめています。

つまり第二段落は、あいさつの限界も認めながら、それでも意味があることを説明し、最後のまとめにつながる役割をしています。

【模範解答】

あいさつの限界も示しながら、それでも意味があることを説明している。

【別解例】

すぐ親しくなれない場合もあるが、あいさつには意味があると示している。

【自己採点チェック】

- ・「すぐに親しくなれるわけではない」という内容をふまえているか。
- ・「それでも意味がある」という内容が入っているか。
- ・第二段落の内容だけでなく、文章全体の中での働きを説明しているか。

練習問題一 段落の内容と役割を確認する

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私たちは、分からないことがあると、すぐに答えを知りたくなる。問題集の解答を見たり、インターネットで調べたりすれば、たしかに答えはすぐに見つかる。

(二) しかし、答えをすぐに知ることが、いつもよいとは限らない。自分で考えて

いる時間には、すぐには見えない力が育っていることがあるからだ。どこでつまづいたのか、何を見落としていたのかを考えることで、次に似た問題に出会ったときの手がかりが増える。

(三) だから、分からない時間をすべて無駄だと考える必要はない。答えにたどり着く前の迷いや試行錯誤も、学びの一部なのである。

【問一】

第一段落には、どのような内容が書かれていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落は、第一段落に対してどのような役割をしていますか。四十字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。三十五字以内で説明しなさい。

練習問題二 段落のつながりを考える

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 雨の日は、外に出るのがおっくうになる。くつはぬれるし、かばんも重く感じる。空も暗く、なんとなく気分まで沈んでしまう。

(二) けれども、雨の日にはか見えないものもある。道ばたの草についた水滴は、光を受けると小さなガラス玉のように見える。いつもは気にとめない水たまりにも、空や建物が逆さまに映っている。

(三) そのようなものに気づくと、雨の日はただ不便なだけではないと思えてくる。晴れた日とは違う景色を見せてくれる、もう一つの時間なのだ。

【問一】

第一段落は、雨の日についてどのような見方を示していますか。三十字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落は、第一段落の見方に対してどのような内容を述べていますか。四十字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落の役割として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 雨の日に外へ出ないほうがよい理由を説明している。

イ 雨の日の不便だけを、もう一度くわしく述べている。

ウ 雨の日にも別のよさがあるという考えをまとめている。

エ 晴れた日の景色が雨の日より美しいことを述べている。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私たちは、何かを学ぶとき、早くできるようになることを望みがちである。計算が速くできるようになること、漢字をすぐ覚えられること、文章を一度で理解できること。それらはたしかに大切な力である。

(二) しかし、学びには、すぐに形にならない時間もある。何度読んでも分からない文章を、少し時間を置いてもう一度読んだとき、前には気づかなかった言葉が見えてくることがある。間違えた問題を解き直すうちに、自分がどこで勘違いをしたのか分かることもある。

(三) このような時間は、外から見ると何も進んでいないように見えるかもしれない。けれども、その間に、考え方の土台が少しずつ育っている。すぐに答えが出ないからこそ、自分の中で問いが残り、次に考える力につながるのである。

(四) たとえば、植物の根は土の中にあるため、ふだん私たちの目には見えない。

だが、根がしっかり広がっていなければ、茎も葉も大きく育つことはできない。学びの中で迷ったり、考え続けたりする時間も、それと似ている。

(五) だから、すぐに分からないことを、ただ失敗と決めつける必要はない。分からないさの中にとどまり、少しずつ考え続ける時間が、やがて確かな理解を支える力になる。

【問一】

第一段落は、学びについてどのような考えを示していますか。四十字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落は、第一段落に対してどのような役割をしていますか。四十五字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落では、「すぐに形にならない時間」にどのような意味があると述べていますか。五十字以内で説明しなさい。

【問四】

第四段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。四十五字以内で説明しなさい。

【問五】

第五段落の役割として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 学びでは、早くできるようになることだけが大切だとまとめている。

イ 分からない時間も理解を支える力になるという考えをまとめている。

ウ 植物の根を観察することが、国語の学びに必要なだと述べている。

エ 答えが出ない問題は、考え続けても意味がないと説明している。

解答・解説

練習問題一

問一

【模範解答】

分らないことがあると、すぐ答えを知りたくなること。

【解説】

第一段落では、私たちが分からないことに出会ったとき、問題集の解答やインターネットによって、すぐに答えを知りたくなることが述べられています。文章全体の出発点となる内容です。

【自己採点チェック】

- ・「分からないこと」が入っているか。
- ・「すぐに答えを知りたくなる」が入っているか。
- ・第一段落にない「考える力」まで書きすぎていないか。

問二

【模範解答】

すぐ答えを知ることに対し、自分で考える時間の意味を示している。

【解説】

第二段落は、「しかし」から始まり、第一段落の「すぐに答えを知りたくなる」という内容に対して、答えをすぐに知ることがいつもよいとは限らないと述べています。そのうえで、自分で考える時間に力が育つことを説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「すぐ答えを知ること」への対比になっているか。
- ・「自分で考える時間の意味」が入っているか。
- ・第二段落の役割を、内容の要約だけで終えていないか。

問三

【模範解答】

分らない時間や試行錯誤も学びの一部だとまとめている。

【解説】

第三段落は「だから」から始まり、前の段落までの内容を受けて結論を述べています。分らない時間を無駄と考えず、迷いや試行錯誤も学びの一部だとまとめています。

【自己採点チェック】

- ・「分らない時間」が入っているか。
- ・「試行錯誤も学びの一部」が入っているか。
- ・第三段落がまとめの役割をしていることを説明できているか。

練習問題二

問一

【模範解答】

雨の日を、不便で気分が沈みやすいものとして見ている。

【解説】

第一段落では、くつがぬれる、かばんが重く感じる、空が暗いなど、雨の日の不便さや気分の沈みが述べられています。したがって、雨の日を少し否定的に見る内容だと分かります。

【自己採点チェック】

- ・「雨の日」が入っているか。
- ・「不便」「気分が沈む」などの内容が入っているか。
- ・第二段落以降のよさまで混ぜていないか。

問二

【模範解答】

雨の日にも、水滴や水たまりなど、雨の日だけの景色があると述べている。

【解説】

第二段落は「けれども」から始まり、第一段落の否定的な見方とは違う内容を述べています。雨の日にはしか見えないものとして、水滴や水たまりに映る景色が挙げられています。

【自己採点チェック】

- ・「雨の日にも」と、第一段落との対比が入っているか。
- ・「水滴」「水たまり」などの具体例が入っているか。
- ・雨の日の不便さだけの説明になっていないか。

問三

【答え】

ウ

【解説】

第三段落では、雨の日はただ不便だけではなく、晴れた日とは違う景色を見せてくれる時間だと述べています。これは、雨の日にも別のよさがあるという考えのまとめです。したがって、ウが正解です。

実戦問題

問一

【模範解答】

学ぶとき、早くできたりすぐ理解できたりすることを望みがちだという考え。

【解説】

第一段落では、私たちは学ぶとき、計算が速くできること、漢字をすぐ覚えられること、文章を一度で理解できることなどを望みがちだと述べています。これは、文章全体で考えるための出発点です。

【自己採点チェック】

- ・「学ぶとき」が入っているか。
- ・「早くできる」「すぐ理解できる」が入っているか。

- ・後の段落の「分からない時間の意味」まで書きすぎていないか。

問二

【模範解答】

早くできることに對し、すぐ形にならない学びの時間もあると示している。

【解説】

第二段落は「しかし」から始まり、第一段落の「早くできることを望みがち」という内容に對して、学びにはすぐに形にならない時間もあると述べています。分からない文章を読み直したり、間違えた問題を解き直したりする例を通して、その内容を説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「早くできること」との対比になっているか。
- ・「すぐ形にならない学びの時間」が入っているか。
- ・第二段落の例だけを答えていないか。

問三

【模範解答】

考え方の土台が育ち、問いが残ること、次に考える力につながる意味がある。

【解説】

第三段落では、すぐに形にならない時間は、外から見ると何も進んでいないように見えるかもしれないと述べています。しかし、その間に考え方の土台が育ち、問いが残ること、次に考える力につながると説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「考え方の土台が育つ」が入っているか。
- ・「次に考える力につながる」が入っているか。
- ・「何も進んでいない」とだけ説明していないか。

問四

【模範解答】

植物の根の例を用いて、見えない時間が学びを支えることを説明している。

【解説】

第四段落では、植物の根は見えないが、茎や葉を支えるために大切だという例が出されています。これは、学びの中で迷ったり考え続けたりする時間も、外からは見えにくいですが理解を支える大切な時間だと説明するための具体例です。

【自己採点チェック】

- ・「植物の根の例」が入っているか。
- ・「見えない時間が学びを支える」が入っているか。
- ・植物についての説明だけで終わっていないか。

問五

【答え】

イ

【解説】

第五段落では、すぐに分からないことを失敗と決めつけず、考え続ける時間が確かな理解を支える力になるとまとめています。したがって、イが正解です。

アは、本文全体の主張と反対です。ウは、植物の根の例をそのまま学習内容として取り違えています。エは、考え続けても意味がないとしている点が本文に合いません。

○この章のまとめ

段落には、それぞれ役割があります。話題を示す段落、前の内容に対して別の見方を示す段落、具体例を挙げる段落、最後に考えをまとめる段落などです。

段落を読むときは、「何が書いてあるか」だけでなく、「この段落は何のためにあるのか」を考えてみましょう。前の段落を受けているのか、具体例を出しているのか、文章全体の結論を述べているのかを見ることが大切です。

段落の役割が分かると、文章全体の流れが見えやすくなります。

第四章 理由と具体例を見分ける

この章で学ぶこと

説明文や論説文では、筆者が伝えたい考えだけでなく、その考えを支える理由や、分かりやすくするための具体例が書かれています。文章を読むときには、「筆者が言いたいこと」と「それを説明するために書かれていること」を分けて考えることが大切です。

たとえば、「読書は大切だ」という文があったとします。これは筆者の考えです。そのあとに、「なぜなら、自分とは違う考え方にふれられるからだ」とあれば、それは理由です。さらに、「昔の人の暮らしを描いた物語を読むと、今とは違う生活や価値観を知ることができる」とあれば、それは具体例です。

理由や具体例は、筆者の考えを支えるためにあります。具体例だけを見ていると、文章全体で何が言いたいのかを見失うことがあります。反対に、理由や具体例の働きが分かると、筆者の主張もつかみやすくなります。

この章では、文章の中から理由と具体例を見分け、筆者の考えを正確に読む練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、毎日の小さな記録は大切だと思う。なぜなら、そのときには何気ないことに見えても、あとから見返すと、自分の変化に気づく手がかりになるからだ。たとえば、読んだ本の感想を一行だけ残しておく、数か月後に見返したとき、以前の自分がどんなことに心を動かされていたのが分かることがある。

【問】

筆者が「毎日の小さな記録は大切だ」と考える理由を、四十字以内で説明しなさい。

い。

【解き方】

まず、筆者の考えを確認します。本文の最初に、「私は、毎日の小さな記録は大切だと思う」とあります。これが中心となる考えです。

次に、理由を探します。理由を示す言葉として「なぜなら」があります。その後には、「そのときには何気ないことに見えても、あとから見返すと、自分の変化に気づく手がかりになるからだ」と書かれています。これが理由です。

最後の「たとえば」以下は、読んだ本の感想を一行だけ残すという具体例です。設問は理由をたずねているので、具体例をそのまま答えるのではなく、理由の部分をまとめて答えます。

【模範解答】

あとから見返すと、自分の変化に気づく手がかりになるから。

【別解例】

何気ない記録も、後で自分の変化を知る手がかりになるから。

【自己採点チェック】

- ・「あとから見返す」という内容が入っているか。
- ・「自分の変化に気づく」が入っているか。
- ・「読んだ本の感想を一行残す」という具体例だけになっていないか。

練習問題一 理由と具体例を確認する

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

私は、朝に少しでも机の上を片づけるようにしている。なぜなら、机の上が整っている、勉強を始めるときに気持ち切り替わりやすいからだ。たとえば、ノートと筆箱だけを机に置いておくと、他のものに気を取られにくくなる。

【問】

筆者が朝に机の上を片づける理由を、三十五字以内で説明しなさい。

(二)

人に説明することは、自分の理解を深める助けになる。説明しようとする、分かっているつもりだった部分が、実はあいまいだったと気づくことがあるからだ。たとえば、数学の解き方を友人に話しているうちに、途中の計算の意味を自分でも説明できないことに気づく場合がある。

【問】

「たとえば」以下の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。四十字以内で説明しなさい。

(三)

同じ言葉でも、言い方によって相手への伝わり方は変わる。声の大きさや速さ、表情によって、言葉の印象が変わるからだ。たとえば、「大丈夫」という言葉でも、明るく言えば安心させる言葉になり、冷たく言えば相手を突き放す言葉のように聞こえることがある。

【問】

この文章で筆者が最も伝えたいことを、三十五字以内で説明しなさい。

練習問題二 主張・理由・具体例を分ける

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、失敗したときこそ、短くてもよいので振り返りを書くことが大切だと思う。失敗した直後は、ただ落ち込んだり、早く忘れたいと思ったりするかもしれない。しかし、何がうまくいかなかったのかを言葉にしておく、次に同じような場面に出会ったときの手がかりになる。

たとえば、発表で声が小さくなってしまったとする。そのときに、「緊張した」ただけ書くのではなく、「最初の一文を覚えていなかったので不安になった」と書いておけば、次は最初の一文をしつかり準備しようと考えられる。失敗をただのいやな出来事で終わらせず、次に生かすためには、少しでも具体的に振り返ることが必要なのである。

【問一】

筆者が大切だと考えていることは何ですか。三十五字以内で説明しなさい。

【問二】

筆者がそのように考える理由を、四十五字以内で説明しなさい。

【問三】

第二段落の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。四十五字以内で説明しなさい。

【問四】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 失敗したときは、早く忘れるために何も書かないほうがよい。

イ 失敗を振り返るときは、落ち込んだ気持ちだけを書けば十分である。

ウ 失敗の原因を具体的に言葉にすると、次に生かしやすくなる。

エ 発表で失敗した場合は、必ず原稿をすべて暗記しなければならない。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私たちは、「集中する」と聞くと、長い時間ずっと同じことを続ける姿を思い浮かべることがある。たしかに、一つのことにじっくり取り組み時間は大切である。しかし、集中とは、ただ長く続けることだけを意味するのではない。

(二) 本当に大切なのは、今、自分が何に目を向けているのかに気づくことである。

机に向かっている、頭の中が別のことでいっぱいなら、時間だけが過ぎていく。反対に、短い時間でも、「今はこの一問を考える」と決めて取り組みれば、その時間は濃いものになる。

(三) たとえば、十分だけ漢字の練習をするときでも、ただ手を動かして何度も書くだけでは、形を覚えたつもりで終わってしまうことがある。けれども、「この漢字はどの部分を間違えやすいか」「前に習った漢字とどこが似ているか」と考えながら書けば、同じ十分でも学び方は変わる。

(四) もちろん、長く取り組み力が必要ないということではない。長い時間を支えるためにも、まずは短い時間の中で、自分の注意をどこに向けるかを確かめることが大切なのだ。集中とは、時間の長さだけではなく、心の向け方にも関わるものである。

【問一】

第一段落では、「集中」についてどのような考えが示されていますか。四十字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落で筆者が本当に大切だと述べていることは何ですか。四十五字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。五十字以内で説明しなさい。

【問四】

第四段落で筆者は、集中についてどのようにまとめていますか。五十字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 集中するためには、短い時間の学習を避け、必ず長時間続けなければならない。

イ 集中とは、時間の長さだけでなく、自分の注意をどこに向けるかにも関わる。
ウ 漢字の練習では、意味を考えずに何度も同じ字を書き続けることが最も大切である。

エ 机に向かっている時間が長ければ、頭の中で別のことを考えていても集中しているといえる。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

机が整うと、勉強を始める気持ちに切り替わりやすいから。

【解説】

「なぜなら」の後に、筆者が机の上を片づける理由が書かれています。最後の「たとえば」以下は、ノートと筆箱だけを置くという具体例です。設問は理由をたずねているので、具体例だけを答えないようにします。

【自己採点チェック】

- ・「机が整う」が入っているか。
- ・「勉強を始める気持ちに切り替わる」が入っているか。
- ・「ノートと筆箱だけを置く」という具体例だけになっていないか。

(二)

【模範解答】

人に説明すると、自分の理解のあいまいさに気づくこと。

【解説】

「たとえば」以下では、数学の解き方を友人に話しているうちに、自分でも説明できない部分に気づく場合があると述べられています。これは、人に説明することで自分の理解が深まる、または理解のあいまいさに気づくという内容を具体的に説明するための例です。

【自己採点チェック】

- ・「人に説明する」が入っているか。
- ・「理解のあいまいさに気づく」が入っているか。
- ・数学の例だけをそのまま答えていないか。

(三)

【模範解答】

同じ言葉でも、言い方によって相手への伝わり方が変わること。

【解説】

文章の最初に、筆者の中心となる考えが述べられています。その後の「声の大きさや速さ、表情」は理由であり、「大丈夫」という言葉の例は具体例です。最も伝えたいことを問われているので、理由や具体例ではなく、中心となる考えを答えます。

【自己採点チェック】

- ・「同じ言葉でも」が入っているか。
- ・「言い方によって伝わり方が変わる」が入っているか。
- ・「大丈夫」という具体例だけになっていないか。

練習問題二

問一

【模範解答】

失敗したときこそ、短くても振り返りを書くこと。

【解説】

第一段落の最初に、「失敗したときこそ、短くてもよいので振り返りを書くことが大切だ」とあります。これが、筆者が大切だと考えていることです。問いに合わせて、必要な部分をまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「失敗したとき」が入っているか。
- ・「振り返りを書く」が入っているか。
- ・第二段落の発表の例だけになっていないか。

問二

【模範解答】

何がうまくいかなかったかを言葉にすると、次の手がかりになるから。

【解説】

筆者は、何がうまくいかなかったのかを言葉にしておくと、次に同じような場面に出会ったときの手がかりになると述べています。これが、失敗したときに振り返りを書くことが大切だと考える理由です。

【自己採点チェック】

- ・「うまくいかなかったことを言葉にする」が入っているか。
- ・「次の手がかりになる」が入っているか。
- ・「落ち込むから」とだけ答えていないか。

問三

【模範解答】

失敗の原因を具体的に書くと、次に生かしやすくなること。

【解説】

第二段落では、発表で声が小さくなった場合の振り返りが例として挙げられています。ただ「緊張した」と書くのではなく、最初の一文を覚えていなかったことまで具体的に書けば、次の準備に生かれます。この例は、失敗を具体的に振り返ることの意味を説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「失敗の原因を具体的に書く」が入っているか。
- ・「次に生かしやすくなる」が入っているか。
- ・「発表で声が小さくなった」という例だけになっていないか。

問四

【答え】

ウ

【解説】

本文では、失敗を振り返るとき、原因を具体的に言葉にすることで、次に同じよう

な場面に出会ったときの手がかりになると述べられています。したがって、ウが正解です。

アは、早く忘れるために何も書かないほうがよいとしている点が本文と反対です。イは、落ち込んだ気持ちだけを書けば十分としている点が本文に合いません。エは、発表の例を一般化しすぎています。

実戦問題

問一

【模範解答】

集中とは長い時間同じことを続けることだけではないという考え。

【解説】

第一段落では、私たちは集中と聞くと、長い時間同じことを続ける姿を思い浮かべることがあると述べています。しかし、筆者は最後に、集中とはただ長く続けることだけを意味するのではないと述べています。

【自己採点チェック】

- ・「集中」が入っているか。
- ・「長い時間続けることだけではない」が入っているか。
- ・集中には長時間だけが必要だという説明になっていないか。

問二

【模範解答】

今、自分が何に目を向けているのかに気づくこと。

【解説】

第二段落の最初に、「本当に大切なのは、今、自分が何に目を向けているのかに気づくことである」とあります。これが筆者の考えの中心です。その後には、机に向かっていても頭の中が別のことでいっぱいなら時間だけが過ぎること、短い時間でも一問に向かえば濃い時間になることが説明されています。

【自己採点チェック】

- ・「今」が入っているか。
- ・「何に目を向けているかに気づく」が入っているか。
- ・「長く机に向かうこと」と取り違えていないか。

問三

【模範解答】

短い時間でも、注意を向けて考えれば学び方が変わることに。

【解説】

第三段落では、十分だけ漢字の練習をする場合が例として挙げられています。ただ何度も書くのではなく、間違えやすい部分や似ている漢字との違いを考えることで、同じ十分でも学び方が変わると述べられています。この具体例は、短い時間でも注意の向け方によって集中の質が変わることを説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「短い時間でも」が入っているか。
- ・「注意を向けて考える」が入っているか。
- ・漢字練習の内容だけを答えていないか。

問四

【模範解答】

集中とは、時間の長さだけでなく、心の向け方にも関わるものだともまとめている。

【解説】

第四段落では、長く取り組む力が必要ないわけではないと認めたうえで、短い時間の中で自分の注意をどこに向けるかを確かめることが大切だと述べています。そして最後に、集中は時間の長さだけではなく、心の向け方にも関わりとまとめています。

【自己採点チェック】

- ・「時間の長さだけではない」が入っているか。

・「心の向け方」が入っているか。

・長く取り組む力が不要だという意味になっていないか。

問五

【答え】

イ

【解説】

本文では、集中とは時間の長さだけではなく、今何に目を向けているのか、どこに注意を向けるのかにも関わりと述べられています。したがって、イが正解です。

アは、必ず長時間続けなければならないとしている点が本文に合いません。ウは、漢字練習の例を取り違えています。エは、机に向かっている時間が長いだけでは集中とはいえないという本文の内容に反しています。

○この章のまとめ

文章を読むときは、筆者の考え、理由、具体例を分けて考えることが大切です。筆者の考えは、文章の中心です。理由は、その考えを支えるものです。具体例は、理由や考えを分かりやすくするために挙げられます。

「なぜなら」は理由、「たとえば」は具体例の手がかりになります。ただし、言葉だけで決めつけるのではなく、その部分が文章全体の中でどのような働きをしているかを考えましょう。

理由と具体例を見分けられるようになると、文章の中心をつかみやすくなります。

第五章 物語文の心情を読む

この章で学ぶこと

物語文では、登場人物の気持ちがいつもはっきり書かれているとは限りません。「うれしかった」「悲しかった」と直接書かれていなくても、行動や会話、表情、まわりの様子から、その人物の心情を考えることができます。

たとえば、何も言わずにうつむいた人物がいたとします。その人物は、怒っているのかもしれませんが、悲しんでいるのかもしれませんが。あるいは、何かを考え込んでいるのかもしれませんが。どれが近いかを考えるためには、その前後の出来事や、人物どうしの関係を見る必要があります。

心情を読むときに大切なのは、勝手に想像しすぎないことです。本文に書かれている行動、会話、表情、場面の变化を根拠にして、「この人物はこうに感じている」と考えます。

この章では、物語文の中で、人物の心情を本文を根拠にして読み取る練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

放課後、私は教室に忘れたノートを取りに戻った。窓際の席に、まだ佐藤さんが座っていた。佐藤さんは机の上に開いた答案用紙をじっと見つめていた。私が「帰らないの」と声をかけると、佐藤さんはあわてて答案を裏返し、「うん、もう帰る」と小さな声で言った。

【問】

佐藤さんは、どのような気持ちだったと考えられますか。四十字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、佐藤さんの行動や様子を確認します。佐藤さんは、答案用紙をじっと見つめています。さらに、声をかけられると、あわてて答案を裏返し、小さな声で答えています。

ここから、佐藤さんは答案を見られなくなかったのだと考えられます。ただし、点数がよかったのか悪かったのかは本文には書かれていません。したがって、「点数が悪くて悲しかった」と決めつけるのは言いすぎです。

本文から言えるのは、答案を人に見られることを気にして、少し気まずく感じていたということです。

【模範解答】

答案を見られたくなく、声をかけられて気まずく感じていた気持ち。

【別解例】

答案を見ていたところを知られ、少しあわてて隠したいと思う気持ち。

【自己採点チェック】

- ・「答案を見られたくない」が入っているか。
- ・「気まずい」「あわてた」などの心情が入っているか。
- ・点数が悪かったなど、本文にないことを決めつけていないか。

練習問題一 行動から心情を読む

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

試合のあと、健太はベンチに座ったまま、しばらくくつひもを結び直していた。もう何度も結び直しているのに、顔を上げようとしないう。友人が「次は勝とう」と言うと、健太は小さくうなずいた。

【問】

健太は、どのような気持ちだったと考えられますか。三十五字以内で説明しなさい。

い。

(二)

発表の順番が近づくと、美咲は原稿を両手で強くにぎった。何度も最初の一文を口の中でくり返し、名前を呼ばれると、ゆっくり立ち上がった。

【問】

美咲は、どのような気持ちだったと考えられますか。三十五字以内で説明しなさい。

(三)

祖母から届いた手紙を読み終えると、私はすぐには封筒にしまわなかった。机の上に置いたまま、もう一度最初から読み返した。最後の一文のところで、思わず指を止めた。

【問】

「私」は、手紙に対してどのような気持ちを抱いていますか。四十字以内で説明しなさい。

練習問題二 会話や場面から心情を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

文化祭の準備で、私たちの班は教室の飾りつけを担当していた。私は、色紙で作った花を黒板のまわりに貼る係だった。けれども、何度貼っても少しずつ傾いてしまい、ほかの人より作業が遅れていた。

そのとき、同じ班の森さんが近づいてきた。私は、また注意されるのだと思って、思わず手を止めた。森さんは、私の貼った花を見て、「この色の組み合わせ、けっこう好きだな」と言った。そして、自分の持っていたテープを半分に切り、「ここを止めると、少し安定するよ」と教えてくれた。

私は、もう一度花を貼り直した。今度は前よりまっすぐに貼ることができた。森さんが「いい感じ」と言うと、私は小さく息をはいた。

【問一】

森さんが近づいてきたとき、「私」はどのような気持ちでしたか。三十字以内で説明しなさい。

【問二】

森さんの言葉によって、「私」の気持ちはどのように変わりましたか。三十字以内で説明しなさい。

【問三】

「私は小さく息をはいた」とありますが、この行動からどのような心情が読み取れますか。三十字以内で説明しなさい。

【問四】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 私は、森さんに注意されると思ったが、認められ助けられて安心した。

イ 私は、森さんに作業をすべて任せ、自分では何もしなくなった。

ウ 森さんは、私の作業を否定し、飾りつけをやめるように言った。

エ 私は、森さんの言葉を聞いて、文化祭の準備が嫌いになった。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、合唱の練習があまり好きではなかった。歌うこと自体が嫌いなわけではない。ただ、大勢の中で声を出すと、自分の声だけが変に目立っているような気がして、いつも少し小さな声になってしまった。

(二) 音楽の時間、先生が「今日は二人ずつ前に出て、短い部分を歌ってみましょう」と言った。教室の空気が少しざわついた。私は楽譜の端を指でなぞりながら、

自分の名前が呼ばれないことを願っていた。

（三）けれども、三番目に私の名前が呼ばれた。隣には、同じ班の春香が立った。春香は私のほうを見て、小さくうなずいた。私は、そのうなずきに返事をするように、ほんの少しだけ首を動かした。

（四）歌い始めると、最初の一音が思ったより小さく出た。私はあわてて楽譜に目を落とした。すると、隣から春香の声がまっすぐに聞こえてきた。大きすぎるわけではないのに、音が前に進んでいくような声だった。私は、その声に少し寄りかかるようにして、次の音を出した。

（五）歌い終わると、先生は「二人の声がだんだんそろってきましたね」と言った。私は顔が熱くなるのを感じた。春香が席へ戻る途中で、「最後、きれいだったよ」と小さく言った。私はすぐには返事ができず、楽譜を胸の前で少し強く持った。

（六）その日の帰り道、私は自分の声がまだ耳の奥に残っているような気がした。うまく歌えたかどうかは分からない。けれども、だれかの声に支えられながら、自分の声も少しだけ前に出せた。そのことだけは、はっきり覚えていた。

【問一】

第一段落で、筆者が合唱の練習をあまり好きではなかったのはなぜですか。三十字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落の「自分の名前が呼ばれないことを願っていた」から、筆者のどのような気持ちが分かりますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落で、春香が小さくうなずいたことは、筆者にとってどのような意味を持っていましたか。三十五字以内で説明しなさい。

【問四】

第四段落の「その声に少し寄りかかるようにして」とは、筆者がどのような気持ちで歌ったことを表していますか。四十字以内で説明しなさい。

【問五】

第五段落で、筆者が「すぐには返事ができず、楽譜を胸の前で少し強く持った」のはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、春香の声を聞いて、自分は歌わなくてもよいと思うようになった。

イ 筆者は、春香に支えられながら、自分の声を少し前に出せたと感じた。

ウ 筆者は、先生にほめられなかったため、合唱への自信を完全になくした。

エ 筆者は、最初から大きな声で歌うことが得意で、名前を呼ばれるのを待っていた。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

試合に負けた悔しさを感じ、すぐ顔を上げられずにいる気持ち。

【解説】

健太は試合のあと、何度もくつひもを結び直し、顔を上げようとしていません。この行動から、試合に負けた悔しさや落ち込みがあり、すぐに気持ちを切り替えられない様子が読み取れます。

【自己採点チェック】

- ・「試合に負けた悔しさ」が入っているか。
- ・「顔を上げられない」様子とつながっているか。
- ・本文にない強い怒りや相手への不満を決めつけていないか。

(二)

【模範解答】

発表を前に緊張しながらも、何とか話そうとしている気持ち。

【解説】

美咲は原稿を強くにぎり、最初の一文を何度もくり返しています。このことから、発表を前に緊張していることが分かります。一方で、名前を呼ばれると立ち上がったので、逃げ出すのではなく、何とか発表しようとしている気持ちも読み取れます。

【自己採点チェック】

- ・「発表を前に緊張している」が入っているか。
- ・「何とか話そうとしている」が入っているか。
- ・「発表が楽しみで仕方ない」と取り違えていないか。

(三)

【模範解答】

祖母の手紙を大切に思い、書かれた言葉を深く受け止めている気持ち。

【解説】

「私」は手紙をすぐに封筒にしまわず、もう一度読み返しています。また、最後の一文で指を止めています。この行動から、手紙を大切に思い、祖母の言葉を心にとめていることが分かります。

【自己採点チェック】

- ・「手紙を大切に思う」が入っているか。
- ・「言葉を深く受け止める」が入っているか。
- ・手紙の内容を嫌がっているように書いていないか。

練習問題二

問一

【模範解答】

作業が遅れていたため、また注意されるのではないかと不安だった。

【解説】

「私」は花をうまく貼れず、ほかの人より作業が遅れています。そのため、森さんが近づいてきたとき、「また注意されるのだと思って」手を止めています。ここから、不安や身構える気持ちが読み取れます。

【自己採点チェック】

- ・「作業が遅れていた」が入っているか。
- ・「注意される不安」が入っているか。
- ・森さんを最初から信頼して喜んでいたように書いていないか。

問二

【模範解答】

注意されると思って不安だったが、認められ助けられて安心した。

【解説】

森さんは、私の作業をただ注意するのではなく、「この色の組み合わせ、けっこう好きだな」と認めたうえで、テープの止め方を教えてくれました。そのため、「私」の気持ちは、不安から安心へと変わったと考えられます。

【自己採点チェック】

- ・「不安だった」が入っているか。
- ・「認められた」「助けられた」が入っているか。
- ・森さんに否定されたと取り違えていないか。

問三

【模範解答】

前よりうまく貼ることができ、ほっとして安心している心情。

【解説】

「小さく息をはいた」という行動は、緊張が少しゆるんだことを表しています。森さんに教えてもらって花を前よりまっすぐ貼ることができ、「いい感じ」と言われたあとですから、安心した気持ちが読み取れます。

【自己採点チェック】

- ・「うまくできた」が入っているか。
- ・「ほっとした」「安心した」が入っているか。
- ・怒りや不満の行動として読んでいないか。

問四

【答え】

ア

【解説】

本文では、「私」は森さんに注意されると思って不安になりますが、森さんは色の組み合わせを認め、貼り方を教えてくれます。その結果、「私」は前よりまっすぐに花

を貼ることができ、安心します。したがって、アが正解です。
イは、私が作業をすべて森さんに任せたと書かれていません。ウは、森さんが私の作業を否定していないので誤りです。エは、文化祭の準備が嫌いになったという内容が本文にありません。

実戦問題

問一

【模範解答】

大勢の中で声を出すと、自分の声だけが目立つようで不安だったから。

【解説】

第一段落には、筆者が歌うこと自体を嫌いなわけではないとあります。そのうえで、大勢の中で声を出すと、自分の声だけが変に目立っているような気がして、声が小さくなってしまうと述べています。これが、合唱の練習をあまり好きではなかった理由です。

【自己採点チェック】

- ・「大勢の中で声を出す」が入っているか。
- ・「自分の声だけが目立つようで不安」が入っているか。
- ・「歌うこと自体が嫌い」と取り違えていないか。

問二

【模範解答】

人前で歌うことを不安に思い、できれば避けたいと願う気持ち。

【解説】

先生が二人ずつ前に出て歌うと言ったあと、筆者は楽譜の端をなぞりながら、自分の名前が呼ばれないことを願っています。これは、人前で歌うことへの不安や、できれば避けたいという気持ちを表しています。

【自己採点チェック】

- ・「人前で歌う不安」が入っているか。
- ・「避けたい」という気持ちが入っているか。
- ・名前を呼ばれたくて期待していたと読んでいないか。

問三

【模範解答】

不安な筆者に、春香が一緒にいるから大丈夫だと伝える合図だった。

【解説】

春香は、筆者のほうを見て小さくうなずいています。筆者も、それに返事をするように首を動かしています。このやりとりから、春香のうなずきは、不安な筆者を支え、安心させるような合図だったと考えられます。

【自己採点チェック】

- ・「不安な筆者」が入っているか。
- ・「一緒にいるから大丈夫」という支えが入っているか。
- ・春香が筆者を責めたように書いていないか。

問四

【模範解答】

春香の声に支えられ、安心しながら自分も声を出そうとしている気持ち。

【解説】

筆者は最初の一言が小さく出て、あわてて楽譜に目を落とします。そのとき、隣から春香のまっすぐな声が聞こえます。「寄りかかるように」という表現から、筆者が春香の声に支えられ、少し安心しながら次の音を出したことが分かります。

【自己採点チェック】

- ・「春香の声に支えられた」が入っているか。
- ・「安心して自分も声を出そうとした」が入っているか。
- ・春香にすべて任せて歌わなかったという意味にしているか。

問五

【模範解答】

ほめられてうれしいが照れくさく、すぐ言葉にできなかったから。

【解説】

先生から「二人の声がだんだんそろってきた」と言われ、春香からも「最後、きれいだったよ」と言われています。筆者は顔が熱くなるのを感じ、すぐに返事ができず、楽譜を強く持っています。ここから、うれしさと照れくさが混ざり、すぐに言葉にできなかったことが読み取れます。

【自己採点チェック】

- ・「ほめられてうれしい」が入っているか。
- ・「照れくさい」「言葉にできない」が入っているか。
- ・怒って返事をしなかったように読んでいないか。

問六

【答え】

イ

【解説】

本文の最後で、筆者は「だれかの声に支えられながら、自分の声も少しだけ前に出せた」と感じています。春香の声によって、自分も少し声を出せたことが大切な経験として残っています。したがって、イが正解です。

アは、筆者が自分は歌わなくてもよいと思ったとは思わけていません。ウは、先生が二人の声を認める言葉をかけているため、本文に合いません。エは、筆者が最初から歌うことを得意としていたわけではないため誤りです。

○この章のまとめ

物語文で人物の心情を読むときは、行動、会話、表情、場面の変化に注目します。気持ちや直接書かれていなくても、人物が何をしたのか、どのように話したのか、前後で何が変わったのかを見ることで、心情を考えることができます。

ただし、本文に書かれていないことまで決めつけてはいけません。「怒っている」「悲しんでいる」「うれしい」と考えるときには、必ず本文のどの部分からそう言えるのかを確かめましょう。

心情を読む力は、人物の内面を勝手に想像する力ではなく、本文の言葉を手がかりにして、人の気持ちに近づく力です。

第六章 説明文の中心をつかむ

この章で学ぶこと

説明文や論説文では、筆者がいちばん伝えたい考えがあります。その考えを、文章の中心といいます。文章を読むときには、一つ一つの文の意味だけでなく、「この文章全体で、筆者は何を言いたいのか」を考えることが大切です。

文章の中心は、はじめに示されることもあれば、最後にまとめとして示されることもあります。また、同じような言葉が何度も出てくる場合、その言葉が中心を考える手がかりになることもあります。

ただし、具体例だけを中心だと思ってしまうと、文章全体の意味を取り違えることがあります。たとえば、犬の話が出てきたからといって、文章の中心が「犬について」であるとは限りません。その犬の話を通して、筆者が何を伝えようとしているのかを見る必要があります。

この章では、説明文の中心をつかみ、筆者が最も伝えたいことをまとめる練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私たちは、近くの道ほどよく知っていると気がちである。毎日通っている道なら、なおさら新しい発見などないように感じるかもしれない。けれども、歩く速さを少しゆるめてみると、いつもの道にも見えていなかったものがあることに気づく。店先の小さな花、壁にうつる木の影、昨日とは少し違う空の色。身近な場所も、見方を変えれば、新しい発見のある場所になるのである。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、本文に出てくる具体例を確認します。「店先の小さな花」「壁にうつる木の影」「昨日とは少し違う空の色」などが挙げられています。ただし、これらは文章の中心そのものではありません。

次に、筆者がそれらの具体例を通して何を言おうとしているのかを考えます。本文の最後には、「身近な場所も、見方を変えれば、新しい発見のある場所になる」とあります。ここが文章全体のまとめになっています。

したがって、中心は「いつもの道」や「花」だけではなく、身近な場所でも見方を変えれば新しい発見がある、ということです。

【模範解答】

身近な場所も、見方を変えれば新しい発見のある場所になること。

【別解例】

よく知っている場所でも、見方を変えると新しいものに気づけること。

【自己採点チェック】

- ・「身近な場所」や「よく知っている場所」にふれているか。
- ・「見方を変える」が入っているか。
- ・花や木の影など、具体例だけを答えていないか。

練習問題一 中心となる考えを探す

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

道具を大切に使うことは、ただ物を長持ちさせるためだけではない。使い終わった筆箱を整える、鉛筆を削っておく、ノートの角をそろえる。そうした小さな行動は、次に学ぶ自分を助ける準備にもなる。道具を整えることは、自分の学びを整えることにもつながっている。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、三十五字以内で説明しなさい。

(二)

人の話を聞くと、すぐに自分の考えを言いたくなることがある。けれども、相手の言葉を最後まで聞いてみると、最初に思ったこととは違う意味が見えてくることがある。聞くとは、ただ黙っていることではない。相手の言葉がどこから出てきたのかを、少し待ちながら受け取ることでもある。

【問】

本文で筆者が考える「聞く」とは、どのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。

(三)

苦手なことに取り組むとき、いきなり大きく変わろうとすると、かえって続かないことがある。まずは一問だけ解く、一行だけ書く、五分だけ机に向かう。その小さな始まりが、次の日の自分を少し動かす。大きな変化は、小さな一歩を重ねる中で生まれてくる。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

練習問題二 具体例にまどわされずに読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、手紙を書く時間には特別なよさがあると思う。もちろん、今は短いメッセージをすぐに送ることができる。連絡をするだけなら、そのほうが速くて便利である。

けれども、手紙を書くときには、相手の顔を思い浮かべながら言葉を選ぶ時間が

生まれる。「元気ですか」と書く前に、最近の相手の様子を思い出す。「ありがとう」と書くときには、何に対してそう感じているのかを考える。そうして言葉を選んでいくうちに、自分の気持ちも少しずつはつきりしてくる。

手紙のよさは、紙に書くことそのものだけにあるのではない。相手を思い、自分の気持ちを見つめながら、言葉をゆっくり選ぶ時間にあるのだ。

【問一】

第一段落では、短いメッセージについてどのように述べていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

【問四】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 手紙のよさは、短いメッセージより速く届くところにある。

イ 手紙を書く時間には、相手や自分の気持ちを見つめるよさがある。

ウ 手紙では、相手のことを考えずに決まった言葉を書けばよい。

エ 今は便利な連絡手段があるので、手紙には意味がなくなった。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私たちの生活は、待たなくてもよい方向へと進んでいる。知りたいことはすぐに調べられ、買いたいものはすぐに注文できる。友人への連絡も、短い言葉で送ることができる。待つ時間は、できるだけ少ないほうがよいものだと思われる。

がちである。

(二) たしかに、すぐに分かること、すぐに届くことには大きな便利さがある。急いでいるとき、必要な情報にすぐたどり着けることは助けになる。遠くにいる人へすぐ連絡できることも、私たちの暮らしを支えている。

(三) しかし、待つ時間がすべて無駄なわけではない。返事を待つ間に、自分が本当は何を伝えたかったのかを考え直すことがある。本の続きを待つ時間に、前の場面を思い出し、これからどうなるのかを想像することもある。すぐに答えが出ない時間の中で、考えが深まることがあるのだ。

(四) たとえば、種をまいてすぐに花が咲くわけではない。水をやり、光を受け、土の中で少しずつ根が広がる時間があるからこそ、やがて芽が出る。人の考えや気持ちも、それと似ている。すぐに形にならない時間の中で、ゆっくり育つものがある。

(五) 便利さを否定する必要はない。けれども、すぐに結果が出ることを大切にしていると、待つ時間の中で育つものを見落としてしまう。待つことは、ただ遅いということではない。考えや気持ちが育つための時間でもあるのだ。

【問一】

第一段落では、現代の生活についてどのように述べていますか。三十字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落で筆者は、待つ時間にどのような意味があると述べていますか。四十字以内で説明しなさい。

【問四】

第四段落の種と花の例は、何を説明するために挙げられていますか。四十字以内

で説明しなさい。

【問五】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 便利な生活はすべて悪いので、すぐ調べたり連絡したりしてはいけない。

イ 待つ時間は何も生まないので、できるだけなくしていくべきである。

ウ 待つ時間には、考えや気持ちがゆっくり育つ大切な意味がある。

エ 種をまけば、必ずすぐに芽が出て花が咲くと筆者は考えている。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

道具を整えることは、自分の学びを整えることにもつながる。

【解説】

本文では、筆箱を整える、鉛筆を削る、ノートの角をそろえるといった具体例が挙げられています。しかし、筆者が最も伝えたいのは、それらの行動そのものではなく、道具を整えることが次に学ぶ自分を助け、自分の学びを整えることにもつながるという点です。

【自己採点チェック】

- ・「道具を整える」が入っているか。
- ・「学びを整える」または「次の学びを助ける」が入っているか。
- ・筆箱や鉛筆などの具体例だけを答えていないか。

(二)

【模範解答】

相手の言葉の意味を、少し待ちながら受け取ろうとすること。

【解説】

本文では、「聞く」とはただ黙っていることではないと述べられています。相手の言葉を最後まで聞くことで、最初に思ったこととは違う意味が見えてくる場合があります。したがって、ここでの「聞く」とは、相手の言葉の意味を待ちながら受け取ることです。

【自己採点チェック】

- ・「相手の言葉」が入っているか。
- ・「少し待ちながら受け取る」が入っているか。

- ・「黙っているだけ」と取り違えていないか。

(三)

【模範解答】

大きな変化は、小さな一步を重ねる中で生まれてくること。

【解説】

本文では、一問だけ解く、一行だけ書く、五分だけ机に向かうといった具体例が挙げられています。これらは、小さな始まりの例です。筆者が最も伝えたいのは、大きな変化は小さな一步を重ねる中で生まれるということです。

【自己採点チェック】

- ・「大きな変化」が入っているか。
- ・「小さな一步を重ねる」が入っているか。
- ・一問だけ解くなどの具体例だけを答えていないか。

練習問題二

問一

【模範解答】

短いメッセージは、連絡を速く便利にできるものと述べている。

【解説】

第一段落では、短いメッセージをすぐに送れること、連絡をするだけなら速くて便利であることが述べられています。ただし、文章全体では、速さや便利さだけではない手紙のよさについて考えています。

【自己採点チェック】

- ・「速く」「便利」が入っているか。
- ・「連絡」に関する内容として説明しているか。
- ・手紙のよさまで混せて答えていないか。

問二

【模範解答】

手紙を書く中で、相手を思い浮かべ言葉を選ぶ時間が生まれること。

【解説】

第二段落では、「元気ですか」「ありがとう」と書くときの具体例が挙げられています。これは、その言葉自体が中心ではなく、手紙を書くときに相手の顔を思い浮かべ、自分の気持ちを確かめながら言葉を選ぶ時間が生まれることを説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「相手を思い浮かべる」が入っているか。
- ・「言葉を選ぶ時間」が入っているか。
- ・「元気ですか」「ありがとう」の例だけを答えていないか。

問三

【模範解答】

手紙のよさは、相手を思い自分の気持ちを見つめ、言葉を選ぶ時間にあること。

【解説】

本文の最後に、「手紙のよさは、紙に書くことそのものだけにあるのではない」とあります。そのうえで、相手を思い、自分の気持ちを見つめながら、言葉をゆっくり選ぶ時間に手紙のよさがあるとまとめています。ここが文章全体の中心です。

【自己採点チェック】

- ・「相手を思う」が入っているか。
- ・「自分の気持ちを見つめる」が入っているか。
- ・「言葉を選ぶ時間」が入っているか。

問四

【答え】

イ

【解説】

本文では、手紙を書く時間には、相手を思い浮かべ、自分の気持ちを見つめながら言葉を選ぶよさがあると述べられています。したがって、イが正解です。アは、手紙が短いメッセージより速く届くとは述べられていません。ウは、相手のことを考えずに書けばよいとしている点が本文と反対です。エは、手紙には意味がなくなったとしている点が本文に合いません。

実戦問題

問一

【模範解答】

知りたいことや連絡などを、待たずにすませられる方向へ進んでいる。

【解説】

第一段落では、知りたいことをすぐ調べられること、買いたいものをすぐ注文できること、友人への連絡をすぐ送れることが述べられています。そこから、現代の生活は待たなくてもよい方向へ進んでいると説明されています。

【自己採点チェック】

- ・「待たずにすませられる」が入っているか。
- ・「調べる」「注文する」「連絡する」などの内容をふまえているか。
- ・待つ時間の意味まで先に書きすぎていないか。

問二

【模範解答】

すぐ分かることや届くことの便利さを認め、後の主張につなげている。

【解説】

第二段落では、すぐに分かることやすぐに届くことには大きな便利さがあると述べています。これは、便利さをただ否定するのではなく、そのよさを認めたくて、第三段落以降の「待つ時間にも意味がある」という主張につなげる役割をしています。

す。

【自己採点チェック】

- ・「便利さを認める」が入っているか。
- ・「後の主張につなげる」が入っているか。
- ・便利さを完全に否定しているように書いていないか。

問三

【模範解答】

返事などを待つ間に、自分の思いやこれからのことを考え深められること。

【解説】

第三段落では、返事を待つ間に自分が本当に伝えたかったことを考え直したり、本の続きを待つ間にこれからどうなるのかを想像したりすることが述べられています。つまり、待つ時間には、考えを深める意味があると説明されています。

【自己採点チェック】

- ・「待つ間」が入っているか。
- ・「自分の思い」や「これからのことを考える」が入っているか。
- ・待つ時間を無駄だとする説明になっていないか。

問四

【模範解答】

すぐ形にならない時間の中で、考えや気持ちがゆっくり育つこと。

【解説】

第四段落では、種をまいてもすぐに花が咲くわけではなく、土の中で根が広がる時間があるからこそ、やがて芽が出ると述べられています。この例は、人の考えや気持ちも、すぐに形にならない時間の中でゆっくり育つことを説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「すぐ形にならない時間」が入っているか。
- ・「考えや気持ちが育つ」が入っているか。

- ・植物の成長だけを答えていないか。

問五

【模範解答】

待つことは遅いだけでなく、考えや気持ちが育つための時間でもあること。

【解説】

本文では、便利さを否定する必要はないとしながらも、すぐに結果が出ることを大切にすると、待つ時間の中で育つものを見落としてしまうと述べています。筆者が最も伝えたいのは、待つことには考えや気持ちが育つための時間という意味もあるということです。

【自己採点チェック】

- ・「待つこと」が入っているか。
- ・「遅いだけではない」が入っているか。
- ・「考えや気持ちが育つ」が入っているか。

問六

【答え】

ウ

【解説】

本文では、待つ時間は無駄ではなく、考えや気持ちがゆっくり育つ大切な時間でもあると述べられています。したがって、ウが正解です。

アは、便利な生活をすべて悪いとしている点が本文に合いません。イは、待つ時間には意味がないとしている点が本文と反対です。エは、種をまけばすぐに芽が出るとしている点が、本文の例と合いません。

○この章のまとめ

説明文の中心をつかむには、筆者が最も伝えたいことを考える必要があります。具体例や一部の言葉だけに注目するのではなく、それらを通して筆者が何を言おう

としているのかを見ましょう。

中心を探すときは、何度も出てくる言葉、文章のはじめや終わりのまとめ、具体例の前後に注目します。特に、最後の段落には筆者の考えがまとめられていることがよくあります。

説明文の中心をつかめるようになると、文章全体を短くまとめる力や、記述問題に答える力も育っていきます。

第七章 記述答案の型を身につける

この章で学ぶこと

国語の記述問題では、本文の内容を分かっているだけでは十分ではありません。設問が何を聞いているのかを読み取り、それに合う形で答える必要があります。

たとえば、「なぜですか」と聞かれたら、理由を答えます。この場合、文末は「～から。」とすると、問いに合った答えになります。「どのようなことですか」と聞かれたら、「～ということ。」の形でまとめるとよいでしょう。「どのような気持ちですか」と聞かれたら、「～気持ち。」と答えると、心情を問われていることに合います。

記述答案では、本文の言葉を使うことも大切ですが、ただ本文を写すだけでは問いに合わない場合があります。本文の内容をふまえながら、設問に合う文の形に整える必要があります。

この章では、問いに合う文末や文の形を意識しながら、記述答案を書く練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、勉強を始める前に、机の上を一度片づけるようにしている。前は、教科書やプリント、読みかけの本が机の上に重なったまま勉強を始めていた。しかし、そうすると、途中で別のものが気になり、なかなか集中できなかった。今は、使うものだけを机に出すようにしている。そうすると、気持ちが切り替わり、勉強を始める準備がしやすくなる。

【問】

筆者が勉強の前に机の上を片づけるのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、設問の聞き方を確認します。「なぜですか」と聞かれているので、理由を答える問題です。したがって、文末は「～から。」にすると、問いに合った答えになります。

本文では、前は机の上いろいろなものが重なっていて、別のものが気になり、集中できなかったとあります。今は、使うものだけを机に出すことで、気持ちが切り替わり、勉強を始める準備がしやすくなると述べられています。

設問は「なぜ片づけるのか」を聞いているので、「机の上を片づけること」そのものを答えるのではなく、その理由をまとめて答えます。

【模範解答】

ノートを整理すると気持ちが切り替わり、勉強を始める準備がしやすくなるから。

【別解例】

使うものだけを出すことで、余計なものに気を取られず勉強に向かえるから。

【自己採点チェック】

- ・「気持ちが切り替わる」が入っているか。
- ・「勉強を始める準備がしやすい」が入っているか。
- ・「なぜ」の答えとして、「～から」で終わっているか。

練習問題一 問いに合う文末で答える

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

私は、朝起きたら、その日にやることを小さな紙に三つだけ書くようにしている。たくさん書きすぎると、かえって何から始めればよいかわからなくなる。三つだけなら、一日の見通しが立ち、落ち着いて行動を始めやすくなる。

【問】

筆者が朝にやることを三つだけ書くのはなぜですか。三十字以内で説明しなさい。

(二)

友人の話を聞くとき、私はすぐに自分の意見を言わないようにしている。相手の言葉を最後まで聞いてみると、最初に思ったこととは違う意味が見えてくることがあるからだ。聞くとは、ただ黙っていることではなく、相手の考えがどこから出てきたのかを受け取ろうとすることでもある。

【問】

本文で筆者が考える「聞く」とは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

(三)

夕食のあと、母が「今日のお弁当、助かったよ」と言った。私は自分が作ったおかずのことを思い出し、少しうつむいた。うれしいのに、正面から「ありがとう」と言われると、何と返してよいか分からなかった。

【問】

このときの「私」は、どのような気持ちでしたか。三十五字以内で説明しなさい。

練習問題二 よくある答案を直す

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

班で発表の準備をしていたとき、私は資料のまとめ方で迷っていた。どの情報を残し、どの情報を削ればよいのか分からなかったからだ。けれども、みんなはそれぞれ作業を進めていて、私はなかなか質問できなかった。

そのとき、同じ班の青木さんが「ここ、少し迷うよね」と言って、私のプリントをのぞきこんだ。私は、できていないことを責められるのではないかと思って身構えた。しかし青木さんは、「この二つは似ているから、一つにまとめてもいいかも」と言い、必要なところに線を引いてくれた。私は、ようやく手を動かし始めること

ができた。

【問一】

青木さんに声をかけられたあと、私はなぜ手を動かし始めることができたのですか。三十五字以内で説明しなさい。

【問二】

次の答えは、問一の答えとしてどこが不十分ですか。三十五字以内で説明しなさい。

・答案例…青木さんが「この二つは似ているから、一つにまとめてもいいかも」と言ったこと。

【問三】

問一の答えとして、問いに合う形に直しなさい。四十字以内で説明しなさい。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、授業中に質問するのが苦手だった。分からないところがあっても、手を挙げると教室中の人に見られるような気がした。自分だけが理解していないと思われるのもいやで、分からないままノートに印をつけるだけのことが多かった。

(二) ある日の数学の授業で、先生が図形の問題を説明した。私は途中までは分かったが、最後にどうしてその式になるのかが分からなかった。ノートの端に小さく「？」を書いたものの、やはり手を挙げることはできなかった。

(三) そのとき、前の席の中村さんが手を挙げた。「最後の式になるところが、もう少し分かりません。」その言葉を聞いた瞬間、私は顔を上げた。自分だけが分かっているのではないのだと、初めて気づいた。

(四) 先生は、もう一度図を使って説明してくれた。さっきは見落としていた長さの関係が見えてきて、私はノートの「？」の横に、小さく丸をつけた。質問したの

は中村さんだったのに、自分の中のつかえも少しほどけたような気がした。

(五) その日から、私は分らないところをそのままにしないように、少しずつ言葉にしてみることにした。質問することは、できないことを見せることではない。理解を進めるための手がかりを、自分で見つけにいくことなのだと思った。

【問一】

筆者が授業中に質問するのを苦手に行っていたのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

【問二】

第三段落で筆者が「初めて気づいた」のは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

次の答えは、問一の答えとしてどこが不十分ですか。四十字以内で説明しなさい。
・ 答案例…自分だけが理解していないと思われること。

【問四】

筆者は、質問することをどのようなことだと考えるようになりましたか。四十五字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、中村さんの質問を聞いて、自分はもう考えなくてもよいと思った。

イ 筆者は、質問することを、理解を進める手がかりを見つけることだと考えた。

ウ 筆者は、先生の説明を聞いても分からなかったので、質問することをあきらめた。

エ 筆者は、最初から人前で質問することが得意で、授業中もよく手を挙げていた。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

一日の見通しが立ち、落ち着いて行動を始めやすくなるから。

【解説】

設問は「なぜですか」と聞いているので、理由を答えます。本文では、やることを三つだけ書くと、一日の見通しが立ち、落ち着いて行動を始めやすくなると述べられています。したがって、文末は「ゝから。」にします。

【自己採点チェック】

- ・「一日の見通しが立つ」が入っているか。
- ・「落ち着いて行動を始めやすい」が入っているか。
- ・「三つだけ書くこと」とだけ答えていないか。

(二)

【模範解答】

相手の言葉を最後まで聞き、考えの背景まで受け取ろうとすること。

【解説】

設問は「どのようなことですか」と聞いているので、「ゝということ」の形でまとめると答えやすくなります。本文では、聞くとはただ黙ることではなく、相手の考えがどこから出てきたのかを受け取ろうとすることだと述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「相手の言葉を最後まで聞く」が入っているか。
- ・「考えの背景を受け取る」が入っているか。
- ・「黙っていること」とだけ答えていないか。

(三)

【模範解答】

感謝されてうれしいが、改まって言われたため少し照れくさい気持ち。

【解説】

設問は「どのような気持ちですか」と聞いているので、心情を答えます。「私」は、母に感謝されてうれしい一方で、正面から「ありがとう」と言われ、何と返してよいか分からなくなっています。したがって、うれしさと照れくささの両方を入れるとよい答えになります。

【自己採点チェック】

- ・「感謝されてうれしい」が入っているか。
- ・「照れくさい」が入っているか。
- ・ただ困っているだけの気持ちとして説明していないか。

練習問題二

問一

【模範解答】

一人で迷っていたところを、友人が責めずに手伝ってくれて安心したから。

【解説】

設問は「なぜですか」と聞いているので、理由の形で答えます。「私」は資料のまとめ方で迷い、質問もできずにいました。青木さんは責めるのではなく、情報のまとめ方を助けてくれました。そのため、安心して手を動かし始めることができたと考えられます。

【自己採点チェック】

- ・「一人で迷っていた」が入っているか。
- ・「責めずに手伝ってくれた」が入っているか。
- ・「安心したから」と理由の形で終わっているか。

問二

【模範解答】

本文の内容は一部合うが、「なぜ」に対する理由の形になっていない。

【解説】

答案例は、青木さんの言葉を本文から抜き出しただけになっています。青木さんが何を言ったかは分かりますが、それによって「私」がなぜ手を動かし始めることができたのかまでは説明できていません。「なぜ」と聞かれたら、理由として「～から」の形に整える必要があります。

【自己採点チェック】

- ・「本文の内容は一部合う」と分かっているか。
- ・「理由の形になっていない」が入っているか。
- ・答案例をすべて間違いとして扱っていないか。

問三

【模範解答】

友人が責めずに手伝ってくれたため、一人で困っていた不安がやわらいだから。

【解説】

問一と同じく、「なぜですか」に答える問題です。青木さんの言葉をそのまま写すのではなく、その言葉によって「私」の気持ちがどう変わったのかを説明します。「不安がやわらいだから」と結ぶことで、理由の形になります。

【自己採点チェック】

- ・「責めずに手伝ってくれた」が入っているか。
- ・「不安がやわらいだ」が入っているか。
- ・「～から」の形で理由を答えているか。

実戦問題

問一

【模範解答】

人前で分らないと言うと、自分だけが理解していないように感じていたから。

【解説】

第一段落では、筆者が手を挙げると教室中の人に見られるような気がしたこと、自分だけが理解していないと思われるのがいやだったことが述べられています。設問は「なぜですか」と聞いているので、それらを理由の形でまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「人前で分らないと言う」が入っているか。
- ・「自分だけが理解していないように感じる」が入っているか。
- ・「質問が苦手だったこと」とだけ答えていないか。

問二

【模範解答】

友人の質問を聞き、自分も同じところで迷っていたのだと気づいたこと。

【解説】

第三段落では、中村さんが「最後の式になるところが、もう少し分かりません」と質問しています。その言葉を聞いて、筆者は自分だけが分かっていなかったのではないと気づきます。設問は「どのようなことですか」と聞いているので、「〽こと」の形でまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「友人の質問を聞いた」が入っているか。
- ・「自分も同じところで迷っていた」が入っているか。
- ・中村さんだけが分らなかったという説明になっていないか。

問三

【模範解答】

内容は近いが、設問が理由を求めているのに、文末が「こと」で終わっている。

【解説】

答案例は、本文の大切な内容を含んでいます。しかし、設問は「なぜですか」と聞いているので、理由として「〜から」の形で答える必要があります。「自分だけが理解していないと思われること」では、文の形が問いに合っていません。

【自己採点チェック】

- ・「内容は近い」が入っているか。
- ・「文末が問いに合っていない」が入っているか。
- ・本文の内容そのものを誤りだと判断していないか。

問四

【模範解答】

質問することは弱さではなく、理解を深め、自分の考えを進めるための手がかりだということ。

【解説】

第五段落で、筆者は「質問することは、できないことを見せることではない」と述べています。そして、理解を進めるための手がかりを自分で見つけにいくことだと考えるようになっていきます。設問は「どのようなこと」と聞いているので、「〜ということ」の形でまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「弱さではない」が入っているか。
- ・「理解を深める」が入っているか。
- ・「自分の考えを進める手がかり」が入っているか。

問五

【答え】

イ

【解説】

本文では、筆者が中村さんの質問をきっかけに、自分だけが分かっていたのではないと気づきます。そして最後には、質問することを、理解を進めるための手

がかりを見つけないことだと考えるようになります。したがって、イが正解です。アは、中村さんが質問したから自分は考えなくてよいと思った、という点が本文に合いません。ウは、筆者が質問することをあきらめたとは書かれていません。エは、筆者が最初から質問を得意としていたわけではないので誤りです。

○この章のまとめ

記述問題では、本文の内容を読み取るだけでなく、設問に合う形で答えることが大切です。

「なぜですか」と聞かれたら、理由を答えるので「くから。」の形にします。「どのようなことですか」と聞かれたら、「くということ。」の形でまとめます。「どのような気持ちですか」と聞かれたら、「く気持ち。」と答えると、問いに合いやすくなります。

ただし、文末の形だけを覚えればよいわけではありません。本文のどこを根拠にするのか、どの要素を入れるのかを考えながら、問いに合う答案に整えていきましょう。

第八章 選択肢のまぎらわしさを見抜く

この章で学ぶこと

国語の選択問題では、本文の内容に合うものを選ぶだけでなく、本文に合わない選択肢を見抜く力も大切です。選択肢の中には、一部だけ本文に合っているものや、本文には書かれていないことを加えているものがあります。

たとえば、本文に「少し不安だった」と書かれているのに、選択肢で「完全に自信をなくした」となっていれば、それは言いすぎです。また、本文に「友人に助けられた」と書かれているからといって、「友人にすべて任せた」とまでは言えません。

選択肢を読むときは、なんとなく近いものを選ぶのではなく、本文のどの部分と合っているのか、どこがずれているのかを確かめましょう。正しい選択肢は、本文の内容を大きく変えずにまとめているものです。

この章では、選択肢のまぎらわしさを見抜き、本文を根拠にして答えを選ぶ練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、前は読書を少し退屈なものだと思っていた。けれども、友人にすすめられた物語を読んでから、少し考えが変わった。登場人物が迷いながら進んでいく姿を追っているうちに、自分もその人と一緒に歩いているような気がした。本を読むことは、ただ文字を追うことではなく、知らない人の時間を少し分けてもらうことなのだと思った。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、読書は退屈なので、友人にすすめられた本を読むのをやめた。

イ 筆者は、読書を通して、登場人物と一緒に歩くような感覚を味わった。

ウ 筆者は、物語を読むよりも、自分の生活だけを見つめるべきだと考えた。

エ 筆者は、読書とは文字を早く読む練習にすぎないと考えるようになった。

【問二】

問一で選んだ選択肢が適切である理由を、四十字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、それぞれの選択肢が本文に合うかを確認します。

アは、「読書を少し退屈なものだと思っていた」という部分は本文にあります。しかし、筆者はその後、友人にすすめられた物語を読んで考えが変わっています。「読むのをやめた」とは書かれていません。

イは、本文に「自分もその人と一緒に歩いているような気がした」とある内容に合っています。

ウは、「自分の生活だけを見つめるべき」とは本文に書かれていません。エも、「文字を早く読む練習にすぎない」とは書かれておらず、むしろ本文の最後の考えと反対です。

したがって、正解はイです。

【模範解答】

本文にある、読書が退屈から楽しみに変わった内容を正確に述べているから。

【別解例】

登場人物と一緒に歩くような感覚を味わったという本文の内容に合うから。

【自己採点チェック】

- ・ 本文のどの部分に合うかを説明しているか。
- ・ 「登場人物と一緒に歩くような感覚」にふれているか。
- ・ ほかの選択肢の言いすぎや本文にない内容と区別できているか。

練習問題一 本文にない内容を見抜く

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

私は、走ることがあまり得意ではない。体育の時間に長い距離を走ると、すぐに息が上がってしまう。それでも、前より少し長く走れるようになると、自分の体が少しずつ変わっているようでうれしくなる。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、走るのが苦手だが、少し長く走れるようになるとうれしい。

イ 筆者は、走ることが得意なので、長い距離でもまったく疲れない。

ウ 筆者は、息が上がるのがいやで、走ることを完全にやめた。

エ 筆者は、体育の時間には走るよりも勉強したいと考えている。

【問二】

ウが本文に合わない理由を、三十字以内で説明しなさい。

(二)

この公園には、大きな遊具はない。けれども、夕方になると、近くの人たちがベンチに座って話をしている。子どもが走り回る場所というより、だれかが少し立ち止まるための場所になっている。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア この公園には大きな遊具が多く、子どもだけが集まっている。

イ この公園は、近くの人たちが少し立ち止まれる場所になっている。

ウ この公園では、夕方になると人がまったくいなくなる。

エ この公園は、遊具がないため、だれにも使われていない。

【問二】

アが本文に合わない理由を、三十五字以内で説明しなさい。

(三)

私は、日記を毎日長く書こうとして、何度も続かなかった。そこで、今は一行だけでもよいことにしている。短くても、その日に見たことや考えたことを残しておく、あとから読み返したとき、自分の変化に気づくことがある。

【問】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、日記は必ず長く書かなければ意味がないと考えている。

イ 筆者は、一行だけの日記では何も残せないと考えている。

ウ 筆者は、短くても日記を残すことで、自分の変化に気づけると考えている。

エ 筆者は、日記を読み返すといやな気持ちになるため、すぐ捨てている。

練習問題二 一部だけ合う選択肢を見抜く

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

班でポスターを作ることになったとき、私は絵を描く係になった。絵は嫌いではなかったが、みんなに見られるものだと思うと、急に手が止まった。失敗したらどうしようと考えてるうちに、白い紙の前で時間ばかりが過ぎていった。

そのとき、同じ班の山下さんが「全部を一人で描こうとしなくてもいいよ」と言った。そして、私が描きかけていた木の横に、小さな鳥の絵を描き足した。「こんなふうに、少しずつ増やしていけばいいんじゃないかな。」その言葉を聞くと、私は少し肩の力が抜けた。完璧な一枚を一人で作るのではなく、みんなで少しずつ形にしていけばよいのだと思えた。

【問一】

次の選択肢アが本文に合わない理由を、四十字以内で説明しなさい。

ア 私は不安だったが、自分一人で完璧なポスターを作る決意をした。

【問二】

次の選択肢ウが本文に合わない理由を、四十五字以内で説明しなさい。

ウ 山下さんの言葉によって、私は完全に自信を持ち、もう不安を感じなくなった。

【問三】

本文の内容に合うものとして最も適切な選択肢を、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 私は、山下さんに注意されたことで、絵を描くことをやめてしまった。

イ 私は、一人で完璧に作ろうとしていたが、みんなで作ればよいと思えるようになった。

ウ 私は、最初から何の不安もなく、班のポスター作りを楽しんでいた。

エ 私は、山下さんにすべてを任せ、自分では何も描かないことにした。

【問四】

問三の正解が適切である理由を、四十五字以内で説明しなさい。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、休日の朝に散歩するのが好きだ。平日の朝は、時間に追われていて、道ばたの草や店の前の看板に目を向ける余裕がほとんどない。けれども、休日の朝は少し歩く速さをゆるめることができる。

(二) この前の日曜日、私はいつも通る商店街を歩いていた。まだ開いていない店が多く、通りは静かだった。シャッターの前には、昨日の雨でできた小さな水たまりがあった。その水面に、向かいのパン屋の赤い屋根がゆれて映っていた。

(三) 私は、パン屋の屋根を毎日のように見ていたはずだった。けれども、水たまりに映ったその色は、いつもより少しやわらかく見えた。直接見るのとは違う形で見えたからだろう。私は、見慣れたものでも、見える場所や角度が変わると、違った表情を持つのだと思った。

(四) 散歩の帰り道、私は少し遠回りをした。新しい場所を探そうと思ったわけではない。ただ、いつもの道にも、まだ見ていないものがあるような気がしたのだ。何か特別な出来事があったわけではない。けれども、その朝の道は、いつもより少し広く感じられた。

【問一】

本文の内容に合うものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。
ア 筆者は、休日の朝に散歩をすることで、見慣れた道にも新しい見え方があると感じた。

イ 筆者は、商店街で新しいパン屋を見つけたため、その店に毎日通うことにした。
ウ 筆者は、水たまりで服がぬれたため、休日の散歩をやめようと考えた。

エ 筆者は、平日の朝も時間に余裕があり、いつも道ばたの草を観察している。

【問二】

イが本文に合わない理由を、四十字以内で説明しなさい。

【問三】

エが本文に合わない理由を、四十字以内で説明しなさい。

【問四】

アが最も適切である理由を、五十字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容から考えて、次の選択肢はどの点が不適切ですか。四十五字以内で説明しなさい。

・ 選択肢…筆者は、特別な出来事が起きたため、いつもの道をまったく別の場所だと感じた。

解答・解説

練習問題一

(一) 問一

【答え】

ア

【解説】

本文では、筆者は走ることがあまり得意ではないと述べています。一方で、前より少し長く走れるようになるとうれしくなるとも述べています。したがって、アが本文の内容に合っています。

(二) 問二

【模範解答】

本文には、走ることをやめたとは書かれていないから。

【解説】

ウは、「息が上がるのがいや」という点は本文の内容に近い部分があります。しかし、本文には、筆者が走ることを完全にやめたとは書かれていません。むしろ、少し長く走れるようになるとうれしいと述べています。

【自己採点チェック】

- ・「走ることをやめた」とは書かれていないことが入っているか。
- ・本文にない内容を加えている選択肢だと分かっているか。
- ・「息が上がる」という一部だけで判断していないか。

(二) 問一

【答え】

イ

【解説】

本文では、この公園に大きな遊具はないと述べられています。その一方で、夕方に

なると近くの人たちがベンチに座って話をしており、だれかが少し立ち止まるための場所になっているとあります。したがって、イが正解です。

(二) 問二

【模範解答】

夕方のベンチのよさはあるが、遊具が多いとは書かれていないから。

【解説】

アは、「人が集まる」という点では本文に近い部分があります。しかし、「大きな遊具が多い」「子どもだけが集まっている」という内容は本文にありません。本文では、むしろ大きな遊具はないと述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「遊具が多い」とは書かれていないことが入っているか。
- ・本文では「大きな遊具はない」と述べられていることを確認できているか。
- ・一部だけ合う内容に引きずられていないか。

(三)

【答え】

ウ

【解説】

本文では、筆者は毎日長く日記を書くこうとして続かなかったため、今は一行だけでもよいことにしています。短くても、その日に見たことや考えたことを残すと、あとから自分の変化に気づくことがあると述べています。したがって、ウが本文に合っています。

アは「必ず長く書かなければ意味がない」としている点が本文と反対です。イは「一行だけの日記では何も残せない」としている点が本文に合いません。エは、日記を捨てているとは本文に書かれていません。

練習問題二

問一

【模範解答】

不安だった点は合うが、一人で全部作る決意までは書かれていないから。

【解説】

選択肢アは、「私は不安だった」という点では本文に合っています。しかし、本文では、山下さんの言葉を聞いて、完璧な一枚を一人で作るのではなく、みんなで少しずつ形にしていけばよいと思えるようになっていきます。「一人で完璧に作る決意をした」は本文と反対です。

【自己採点チェック】

- ・「不安だった点は合う」と分かっているか。
- ・「一人で全部作る決意」は本文にないと説明しているか。
- ・一部だけ合う選択肢に注意できているか。

問二

【模範解答】

友人の助言で少し安心しただけで、完全に自信を持てたとまでは書かれていないから。

【解説】

選択肢ウは、山下さんの言葉によって筆者の気持ちが変わった点では本文に合っています。しかし、本文では「少し肩の力が抜けた」とあるだけで、「完全に自信を持った」「もう不安を感じなくなった」とまでは書かれていません。これは言いすぎの選択肢です。

【自己採点チェック】

- ・「少し安心した」は本文に合うと分かっているか。
- ・「完全に自信を持った」は言いすぎだと説明しているか。
- ・本文の表現の強さを確かめているか。

問三

【答え】

イ

【解説】

本文では、筆者は一人で完璧にポスターを作ろうとして手が止まっています。その後、山下さんの言葉をきっかけに、みんなで少しずつ形にしていけばよいと思えるようになります。したがって、イが最も適切です。

問四

【模範解答】

本文では、友人に助けられながら、不安な作業を少しずつ進めたことが中心だから。

【解説】

イは、筆者が一人で完璧に作ろうとしていたこと、山下さんの言葉によってみんなで作ればよいと思えるようになったことを、本文の流れに合わせてまとめています。ほかの選択肢のように、絵をやめたり、最初から不安がなかったり、すべてを任せたりしたとは書かれていません。

【自己採点チェック】

- ・「友人に助けられた」が入っているか。
- ・「不安な作業を少しずつ進めた」が入っているか。
- ・本文の中心を大きく変えずに説明しているか。

実戦問題

問一

【答え】

ア

【解説】

本文では、筆者が休日の朝に散歩をし、いつもの商店街で水たまりに映るパン屋の

屋根を見ます。その経験から、見慣れたものでも、見える場所や角度が変わると違った表情を持つと感じています。したがって、アが最も適切です。

問二

【模範解答】

パン屋は前から見ていた店で、新しく見つけた店とは書かれていないから。

【解説】

イは、パン屋が出てくる点では本文と関係があります。しかし、本文では「パン屋の屋根を毎日のように見ていたはずだった」とあるので、筆者が新しいパン屋を見つけたわけではありません。また、その店に毎日通うことにしたとも書かれていません。

【自己採点チェック】

- ・「パン屋は前から見ていた」が入っているか。
- ・「新しく見つけた店ではない」が入っているか。
- ・パン屋という一語だけで判断していないか。

問三

【模範解答】

平日の朝は時間に追われ、道ばたに目を向ける余裕がないから。

【解説】

エは、平日の朝も時間に余裕があるとしている点が本文に合いません。第一段落では、平日の朝は時間に追われていて、道ばたの草や店の前の看板に目を向ける余裕がほとんどないと述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「平日の朝は時間に追われる」が入っているか。
- ・「目を向ける余裕がない」が入っているか。
- ・休日の朝と平日の朝を取り違えていないか。

問四

【模範解答】

休日の散歩で、水たまりに映る屋根を見て、見慣れた道にも新しい見え方があると感じたから。

【解説】

アは、本文全体の流れに合っています。筆者は休日の朝に散歩をし、水たまりに映ったパン屋の屋根を見ます。その経験を通して、見慣れたものでも、見える場所や角度が変わると違った表情を持つと感じています。したがって、アが最も適切です。

【自己採点チェック】

- ・「休日の散歩」が入っているか。
- ・「水たまりに映る屋根」が入っているか。
- ・「見慣れた道にも新しい見え方がある」が入っているか。

問五

【模範解答】

特別な出来事ではなく、見慣れた道の見え方が少し変わったただけだから。

【解説】

選択肢は、「特別な出来事が起きた」「まったく別の場所だと感じた」と述べています。しかし本文では、「何か特別な出来事があったわけではない」とはつきり書かれています。また、いつもの道が「まったく別の場所」になったのではなく、「いつもより少し広く感じられた」と述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「特別な出来事ではない」が入っているか。
- ・「まったく別の場所」は言いすぎだと分かっているか。
- ・「少し広く感じた」という本文の表現をふまえているか。

○この章のまとめ

選択問題では、本文に近い言葉が入っているだけで正解とは限りません。一部だ

け合っている、本文にない内容を加えていたり、言いすぎていたりすれば、不適切な選択肢になります。

選択肢を読むときは、「どこが本文に合うか」と同時に、「どこが本文からずれているか」を確かめましょう。特に、「必ず」「完全に」「まったく」「すべて」などの強い表現には注意が必要です。

正しい選択肢は、本文の内容を大きく変えず、本文に書かれている範囲でまとめているものです。本文に戻りながら選ぶことで、なんとなくではなく、根拠を持って答えられるようになります。

第九章 短く要約する

この章で学ぶこと

文章を要約するとは、本文の大事な内容を短くまとめることです。要約では、本文に出てくる言葉をただ短くつなげるだけでは不十分です。何が中心で、何が理由や具体例なのかを考え、必要な内容を残してまとめることが大切です。

たとえば、本文に「朝、窓を開けたら鳥の声が聞こえた」「道ばたの花に気づいた」「空の色がきれいだった」といった具体例が並んでいたとします。その文章の中心が「ゆっくり見ることで、身近な景色にも気づきがある」ということなら、要約では具体例をすべて入れる必要はありません。

要約では、具体例を削り、中心となる考えを残します。ただし、短くしすぎて大事な内容まで消してしまうと、本文の意味が変わってしまいます。

この章では、文章の中心をつかみ、必要な内容を残して短くまとめる練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、夜寝る前に、その日にあったことを一つだけ手帳に書くようにしている。長い日記を書こうとすると続かないが、一つだけなら無理なく書ける。たとえば、「友人の言葉がうれしかった」「帰り道の空が明るかった」など、ほんの短いことよいい。あとから読み返すと、そのときの自分が何を見て、何を感じていたのかが分かる。短い記録は、自分の変化に気づくための小さな手がかりになる。

【問一】

本文の内容を、四十字以内で要約しなさい。

【問二】

問一の要約で大切にすべき点を、三十五字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、本文の中心を探します。本文では、「友人の言葉」「帰り道の空」などの具体例が出てきます。しかし、要約ではそれらをすべて入れる必要はありません。

大切なのは、短い記録にはどのような意味があるのかという点です。本文の最後に、「短い記録は、自分の変化に気づくための小さな手がかりになる」とあります。ここが中心です。

したがって、要約では「短い記録」「自分の変化に気づく」という内容を残し、具体例は削ります。

【模範解答】

朝の短い記録は、一日の流れを振り返り、自分の変化に気づく手がかりになる。

【別解例】

短い記録を続けることで、自分が何を見て感じてきたかに気づける。

【自己採点チェック】

- ・「短い記録」が入っているか。
- ・「自分の変化に気づく」が入っているか。
- ・友人の言葉や空の色など、具体例だけを並べていないか。

練習問題一 中心を残して短くまとめる

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

失敗したとき、私はできるだけすぐに理由を書いておくようにしている。たとえば、忘れ物をしたなら、ただ「忘れた」と書くのではなく、「前の日にかばんを確認しなかった」と書く。原因を言葉にしておく、次に同じ失敗をしないために何をすればよいかが見えやすくなる。

【問】

本文の内容を、四十五字以内で要約しなさい。

(二)

音読をすると、文章のつながりに気づきやすくなることがある。目で読んでいただけでは通り過ぎてしまう言葉も、声に出すと少し立ち止まって感じられる。文の切れ目や言葉の調子が分かると、文章の意味もつかみやすくなる。

【問】

本文の内容を、四十字以内で要約しなさい。

(三)

勉強していて疲れたとき、短い休憩を取るとは大切だ。ただし、長く休みすぎると、かえって戻りにくくなることもある。水を飲む、窓を開ける、少し立ち上がる。そのような短い休憩は、気持ちを切り替え、次の作業に向かう助けになる。

【問】

本文の内容を、四十字以内で要約しなさい。

練習問題二 よくある要約を直す

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

あいさつは、人との関係を急に深める魔法の言葉ではない。「おはよう」と言ったからといって、すぐに親しくなれるわけではないし、相手が必ず返事をしてくれるとも限らない。

それでも、あいさつには意味がある。朝、教室で「おはよう」と声をかけることは、相手がそこにいることに気づいているという小さな合図になる。帰るときに「また明日」と言うことも、次に会う時間を少しあたたくする。

あいさつは、関係を一度に変えるものではない。けれども、相手を大切に思っ

いることを、日々の中でそっと伝える言葉なのである。

【問一】

本文の内容を、五十字以内で要約しなさい。

【問二】

次の要約は、どこが不十分ですか。四十字以内で説明しなさい。

・要約例…朝に「おはよう」と言い、帰るときに「また明日」と言うこと。

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 読書は、知識を増やすためだけのものではない。もちろん、本を読むことで、新しい言葉や知らなかった事実を知ることができる。図鑑を読めば魚の名前を覚えることができるし、歴史の本を読めば昔の出来事を知ることができる。

(二) けれども、読書のよさはそれだけではない。物語を読むと、自分とは違う立場の人が、何を見て、何を感じているのかを想像することがある。すぐに答えが出ない場面に立ち会いながら、自分ならどう考えるだろうと心の中で問い直すこともある。

(三) また、説明文を読むと、ふだん何気なく見ているものに別の見方があると気づくことがある。たとえば、いつも歩いている道も、植物や建物の歴史を知ると、少し違って見えてくる。読書は、知識を増やすだけでなく、ものの見方を広げる時間にもなる。

(四) だから、本を読むときには、何を覚えたかだけでなく、読んだあとに世界がどう見えるようになったかを大切にしたい。読書は、自分の外にある言葉にふれながら、自分の考え方や感じ方を少しずつ広げていく営みなのである。

【問一】

第一段落では、読書についてどのようなことが述べられていますか。五十字以内

で説明しなさい。

【問二】

第二段落と第三段落の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。四十
五字以内で説明しなさい。

【問三】

本文全体の内容を、五十字以内で要約しなさい。

【問四】

次の要約は、どこが不十分ですか。三十五字以内で説明しなさい。
・要約例…読書をする、図鑑で魚の名前を覚えらる。

【問五】

問三の要約として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 読書は、図鑑や歴史の本によって、多くの知識だけを覚えるためのものである。
- イ 読書は、知識を増やすだけでなく、考え方や感じ方を広げる営みでもある。
- ウ 読書では、物語よりも説明文を読むほうが必ず大切である。
- エ 読書をして、ものの見方は変わらず、覚えた言葉だけが残る。

【問六】

問五で選んだ選択肢が最も適切である理由を、四十字以内で説明しなさい。

解答・解説

練習問題一

(一)

【模範解答】

失敗は避けるだけでなく、原因を言葉にすることで次の行動に生かせるものだという内容。

【解説】

本文では、忘れ物をしたときに「前の日にかばんを確認しなかった」と書く例が出ています。しかし、要約ではこの具体例だけを答えるのではなく、失敗の原因を言葉にすると次の行動に生かせる、という中心をまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「失敗」が入っているか。
- ・「原因を言葉にする」が入っているか。
- ・「次の行動に生かせる」が入っているか。

(二)

【模範解答】

音読は声を出す練習だけでなく、言葉のつながりや意味を確かめる助けになる。

【解説】

本文では、音読によって言葉に立ち止まったり、文の切れ目や調子が分かったりすると述べられています。要約では、それらをまとめて、音読が文章のつながりや意味を確かめる助けになると表します。

【自己採点チェック】

- ・「音読」が入っているか。
- ・「言葉のつながり」が入っているか。
- ・「意味を確かめる助け」が入っているか。

(三)

【模範解答】

短い休憩は、気持ちを切り替え、次の作業に集中し直すために役立つということ。

【解説】

本文では、水を飲む、窓を開ける、少し立ち上がるという具体例が出ています。要約では、その一つ一つを並べるのではなく、短い休憩が気持ちを切り替え、次の作業に向かう助けになるという中心をまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「短い休憩」が入っているか。
- ・「気持ちを切り替える」が入っているか。
- ・具体例だけを並べた答えになっていないか。

練習問題二

問一

【模範解答】

身近な人へのあいさつは、関係を急に深めるものではないが、相手を大切に思う小さな合図になる。

【解説】

本文では、あいさつによってすぐに親しくなれるわけではないと述べられています。しかし、それでも相手がそこにいることに気づいている合図になり、相手を大切に思う気持ちをそっと伝える言葉になるとまとめられています。

【自己採点チェック】

- ・「関係を急に深めるものではない」が入っているか。
- ・「相手を大切に思う」が入っているか。
- ・「小さな合図」や「そっと伝える言葉」が入っているか。

問二

【模範解答】

あいさつの具体例だけでなく、相手を大切に思う合図という中心をまとめていないから。

【解説】

要約例は、本文に出てきた具体例を並べているだけです。「おはよう」や「また明日」は、あいさつの例としては合っています。しかし、本文全体で大切なのは、あいさつが相手を大切に思う小さな合図になるという点です。

【自己採点チェック】

- ・「具体例だけ」と分かっているか。
- ・「相手を大切に思う合図」という中心が入っているか。
- ・本文の言葉を写せば要約になると考えていないか。

実戦問題

問一

【模範解答】

読書は、新しい言葉や知らなかった事実などの知識を増やすものだと言っている。

【解説】

第一段落では、読書によって新しい言葉や知らなかった事実を知ることができる述べられています。図鑑で魚の名前を覚えることや、歴史の本で昔の出来事を知ることが、その具体例です。

【自己採点チェック】

- ・「読書」が入っているか。
- ・「新しい言葉」や「知らなかった事実」が入っているか。
- ・第二段落以降の内容まで混ぜすぎているか。

問二

【模範解答】

図鑑や物語の例は、読書によって世界や他者の感じ方にふれられることを説明するため。

【解説】

第二段落では、物語を読むことで、自分とは違う立場の人の見方や感じ方を想像することが述べられています。第三段落では、説明文を読むことで、ふだん見ているものに別の見方があると気づくことが述べられています。これらの具体例は、読書がものの見方を広げることがを説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「世界」や「他者の感じ方」にふれることが入っているか。
- ・「ものの見方が広がる」内容とつながっているか。
- ・具体例そのものだけを答えていないか。

問三

【模範解答】

読書は知識を増やすだけでなく、自分と違う考えや感じ方にふれ、見方を広げる時間だということ。

【解説】

本文全体では、読書によって知識を増やせることを認めただけで、それだけではなく、物語や説明文を通して、自分とは違う考え方や感じ方にふれ、ものの見方を広げることができる述べられています。したがって、その両方を入れてまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「知識を増やすだけでなく」が入っているか。
- ・「自分と違う考えや感じ方」が入っているか。
- ・「見方を広げる」が入っているか。

問四

【模範解答】

本文の中心は読書の意味であり、魚の名前を覚えることだけではないから。

【解説】

要約例は、第一段落の具体例だけを取り上げています。図鑑で魚の名前を覚えることは本文にあります。が、本文全体の中心ではありません。本文全体では、読書が知識を増やすだけでなく、考え方や感じ方を広げる営みでもあると述べられています。

【自己採点チェック】

- ・「魚の名前」は具体例だと分かっているか。
- ・「読書の意味」が中心だと説明しているか。
- ・本文全体ではなく一部だけを要約していないか。

問五

【答え】

イ

【解説】

本文では、読書は知識を増やすためのものではなく、自分とは違う考え方や感じ方にふれ、ものの見方を広げる営みでもあると述べられています。したがって、イが最も適切です。

アは、「知識だけ」としている点が本文に合いません。ウは、物語より説明文のほうが必要だとは書かれていません。エは、読書によってもものの見方が広がるという本文の内容に反しています。

問六

【模範解答】

本文全体の中心をとらえ、知識と見方の広がりの方をまとめているから。

【解説】

イは、本文全体の中心を大きく変えずにまとめています。読書によって知識が増えることだけでなく、考え方や感じ方が広がることも含めているため、本文の要約として最も適切です。

【自己採点チェック】

- ・「本文全体の中心」が入っているか。
- ・「知識」と「見方の広がり」の両方が入っているか。
- ・一部の具体例だけで判断していないか。

○この章のまとめ

要約では、本文の大事な内容を短くまとめます。そのためには、具体例をそのまま並べるのではなく、具体例を通して筆者が伝えたい中心をつかむ必要があります。要約するときは、まず本文の中心を考えます。次に、残す内容と削る内容を分けます。具体例、くり返し、細かい説明は削れることがあります。一方で、筆者の考え、理由の中心、文章全体の結論は残す必要があります。

よい要約は、短いだけではありません。本文の意味を変えず、大事な内容を残しているものです。

第十章 総合問題

この章で学ぶこと

ここまでの章では、指示語、接続語、段落の役割、理由と具体例、物語文の心情、記述答案の型、選択肢の見分け方、要約のしかたを学んできました。

文章を読むとき、これらの力は別々に使うものではありません。指示語を正確につかみ、接続語で流れを読み、段落の役割を考えながら、筆者の中心となる考えや人物の心情を読み取っていきます。そして、設問に合う形で答えたり、本文に合う選択肢を選んだり、文章全体を短くまとめたりします。

この章では、これまで学んだ読み方を使って、まとまった文章に取り組みます。本文の言葉に戻りながら、一つ一つの問いに根拠を持って答えていきましょう。

総合問題一 説明文を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私たちは、予定が何も入っていない時間を、少し不安に感じることもある。勉強、部活動、習い事、連絡への返信。やることが多い毎日の中では、何もしていない時間があると、どこかもったいないように思える。予定を入れず、急いで何かをしないそのような時間を、無駄だと感じてしまうのである。

(二) 便利な道具が増えたことで、私たちは多くのことを短い時間でできるようになった。調べものも、買い物も、連絡も、以前より速くすませることができる。しかし、そうして空いた時間に、また別の予定を入れてしまうことも多い。時間ができたはずなのに、心が休まるとは限らない。

(三) ある日、私は駅で電車を待っていた。スマートフォンの充電が切れてしまい、することがなくなった。最初は少し落ち着かなかったが、ふと空を見ると、薄い雲がゆっくり流れていた。その雲を見ているうちに、明日の発表で何を最初に話すか

が、自然に頭に浮かんできた。何もしていないように見える時間にも、心の中では考えが動いていることがあるのだと思った。

(四) もちろん、予定を立てることや、時間を大切に使うことは必要である。けれども、すべての時間を用事で埋めてしまうと、自分の考えや気持ちが静かに動く余地がなくなってしまう。ぼんやりする時間、少し立ち止まる時間、何かを待つ時間。そうした余白の中で、私たちは自分の内側にあるものに気づくことがある。

(五) 余白の時間は、ただ何もしていない時間ではない。考えや気持ちがゆっくり動き、自分を整えるための大切な時間でもある。急いで何かをする時間だけでなく、何もしていないように見える時間にも、意味があるのだ。

【問一】

傍線部「そのような時間」とは、どのような時間ですか。三十字以内で説明しなさい。

【問二】

第二段落の「しかし」は、前後の内容をどのようにつないでいますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

第三段落の駅で電車を待つ例は、何を説明するために挙げられていますか。三十五字以内で説明しなさい。

【問四】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 便利な道具が増えたので、私たちは完全に心を休められるようになった。

イ 余白の時間は無駄ではなく、考えや気持ちを整える意味を持つ。

ウ 予定を立てることはすべて悪いので、何も計画しないほうがよい。

エ 何もしていない時間には、心の中でも何も起こらない。

【問六】

問五で選んだ選択肢が最も適切である理由を、四十字以内で説明しなさい。

総合問題二 物語文を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、図書委員の仕事で、新しく入った本の紹介カードを書く係になった。文章を書くことは嫌いではない。けれども、廊下の掲示板に貼られ、知らない人にも読まれるものだと思うと、急に言葉が重く感じられた。

(二) 机の上には、紹介する本と白いカードが置かれていた。私は何度も鉛筆を持ち直したが、最初の一文が決まらなかった。この本のよさを全部伝えなければならぬ。そう思えば思うほど、書き出しが遠くなっていった。そのことに気づくと、私はますます手を止めてしまった。

(三) 同じ図書委員の莉子さんが、私のメモをのぞきこんだ。私は、まだ一行も書いていないことを注意されるのではないかと思った。けれども莉子さんは、「全部説明しなくても、読んだ人が手に取りたくなる一文でいいんじゃない」と言った。そして、私のメモの中にあった「雨音が聞こえそう」という言葉を指さした。

(四) 私は、その言葉を中心にして、もう一度カードを書き始めた。「雨音が聞こえそうな静かな物語です。」短い文だったが、無理に上手にまとめようとしていたときより、その本に近い気がした。書き終えたカードを掲示板に貼るとき、私はまだ少し緊張していたが、最初ほどこわくはなかった。

(五) 次の日の昼休み、掲示板の前で一年生がそのカードを見ていた。「これ、読んでみたい」と小さく言う声が聞こえた。私はすぐに声をかけることができず、本棚を直すふりをした。けれども、胸のあたりが少し温かくなった。

(六) たくさんのことを書くことだけが、伝えることではないのかもしれない。自分が本から受け取った小さな感じを、誰かにそつと渡せることもある。そのことを、

私は一枚の紹介カードから教えられた気がした。

【問一】

第一段落で、筆者が「言葉が重く感じられた」のはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

【問二】

傍線部「そのこと」とは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

【問三】

莉子さんの言葉によって、筆者はどのようなことに気づきましたか。四十字以内で説明しなさい。

【問四】

第五段落で、筆者が「胸のあたりが少し温かくなった」のはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、紹介カードに本の内容をすべて書かなければならないと最後まで考えていた。

イ 筆者は、莉子さんにすべてを書いてもらい、自分では紹介カードを書けなかった。

ウ 筆者は、短い言葉でも本から受け取った感じを伝えられると気づいた。

エ 筆者は、一年生に声をかけられたため、紹介カードを書くことをやめた。

【問六】

次の選択肢は、本文の内容とどこがズレていますか。四十字以内で説明しなさい。

・ 選択肢…筆者は、一年生が本を読みたいと言ったので、すぐに声をかけて本をすすめた。

【問七】

本文全体の内容を、五十字以内で要約しなさい。

解答・解説

総合問題一

問一

【模範解答】

予定を入れず、何かを急がずにただぼんやりしている時間のこと。

【解説】

「そのような時間」は、直前に述べられている内容を指しています。第一段落では、予定が何も入っていない時間や、何もしていない時間について述べられています。したがって、予定を入れず、急いで何かをしない時間としてまとめます。

【自己採点チェック】

- ・「予定を入れない」が入っているか。
- ・「急いで何かをしない」が入っているか。
- ・単に「無駄な時間」とだけ答えていないか。

問二

【模範解答】

便利さを認めつつ、空いた時間にも予定を入れがちな姿を示している。

【解説】

第二段落の前半では、便利な道具によって多くのことを短い時間でできるように述べられています。後半では、そうして空いた時間にも、また別の予定を入れてしまうことが多いと述べています。「しかし」は、便利になったのに心が休まるとは限らない、という流れを作っています。

【自己採点チェック】

- ・「便利さを認めている」が入っているか。
- ・「空いた時間にも予定を入れる」が入っているか。
- ・便利さを完全に否定しているように書いていないか。

問三

【模範解答】

雲を眺めて考えが動いた例で、余白の時間から気づきが生まれること。

【解説】

第三段落では、電車を待つ間にスマートフォンが使えなくなり、雲を見ているうちに発表のことが自然に浮かんできた例が挙げられています。この例は、何もしていないように見える時間にも、心の中で考えが動くことを説明しています。

【自己採点チェック】

- ・「雲を眺める」が入っているか。
- ・「考えが動く」または「気づきが生まれる」が入っているか。
- ・駅で待ったという出来事だけを答えていないか。

問四

【模範解答】

余白の時間は無駄ではなく、考えや気持ちを動かし、自分を整える時間だということ。

【解説】

本文全体では、予定のない時間を無駄に感じる考えから始まり、便利さによって空いた時間にも予定を入れてしまうこと、そして余白の時間にも考えや気持ちを動かす意味があることが述べられています。第五段落のまとめが中心です。

【自己採点チェック】

- ・「余白の時間」が入っているか。
- ・「無駄ではない」が入っているか。
- ・「考えや気持ちを動かす」「自分を整える」が入っているか。

問五

【答え】

イ

【解説】

本文では、余白の時間はただ何もしていない時間ではなく、考えや気持ちがゆっくり動き、自分を整えるための大切な時間でもあると述べられています。したがって、イが最も適切です。

アは、便利な道具によって完全に心を休められるようになったとは書かれていません。ウは、予定を立てることをすべて悪いとしている点が本文に合いません。エは、何もしていない時間にも考えが動くという本文の内容と反対です。

問六

【模範解答】

本文全体の中心である、余白の時間が持つ大切な意味を正確にまとめているから。

【解説】

イは、余白の時間が無駄ではなく、考えや気持ちを整える意味を持つという本文全体の中心をまとめています。本文では、便利さや予定を否定するのではなく、余白の時間にも大切な働きがあると述べています。

【自己採点チェック】

- ・「本文全体の中心」が入っているか。
- ・「余白の時間の意味」が入っているか。
- ・イの内容が本文を大きく変えていないことを説明しているか。

総合問題二

問一

【模範解答】

自分の書いた紹介文が掲示板に貼られ、人に読まれると思ったから。

【解説】

第一段落では、筆者は文章を書くこと自体は嫌いではないと述べています。しかし、紹介カードが廊下の掲示板に貼られ、知らない人にも読まれるものだと思うと、急に言葉が重く感じられたとあります。したがって、人に読まれることへの緊張が理

由です。

【自己採点チェック】

- ・「紹介文が掲示板に貼られる」が入っているか。
- ・「人に読まれる」が入っているか。
- ・文章を書くこと自体が嫌いだったと取り違えていないか。

問二

【模範解答】

一番よい言葉を選ばなければならないと思い、書けなくなったこと。

【解説】

「そのこと」は、前に述べられた内容を指しています。第二段落では、筆者が「この本のよさを全部伝えなければならない」と考えるほど、書き出しが遠くなったとあります。つまり、よい言葉を選ばなければならないと思い、かえって書けなくなったことを指しています。

【自己採点チェック】

- ・「一番よい言葉を選ばなければならない」が入っているか。
- ・「書けなくなった」が入っているか。
- ・白いカードが置かれていたことだけを答えていないか。

問三

【模範解答】

全部を説明せず、読んだ人が手に取りたくなる一文でよいと気づいたこと。

【解説】

莉子さんは、「全部説明しなくても、読んだ人が手に取りたくなる一文でいい」と言っています。この言葉によって、筆者は本のよさをすべて説明しようとしなくても、自分が受け取った感じを短い言葉で伝えればよいと気づきます。

【自己採点チェック】

- ・「全部を説明しなくてよい」が入っているか。

・「手に取りたくなる一文」が入っているか。

・莉子さんがすべて書いてくれたという説明になっていないか。

問四

【模範解答】

自分の言葉が本の魅力を伝えられたと感じ、うれしさを静かに受け止めているから。

【解説】

第五段落では、一年生が紹介カードを見て「これ、読んでみたい」と言っています。筆者はすぐに声をかけることはできませんでしたが、自分の書いた言葉が本を手にするきっかけになったと感じ、うれしさを静かに受け止めていると考えられます。

【自己採点チェック】

・「自分の言葉が伝わった」が入っているか。

・「うれしさ」が入っているか。

・すぐに声をかけたと取り違えていないか。

問五

【答え】

ウ

【解説】

本文では、筆者は最初、本のよさを全部伝えなければならないと思って書けなくなります。しかし、莉子さんの言葉をきっかけに、短い一文でも本から受け取った感じを伝えられると気づきます。したがって、ウが最も適切です。

アは、筆者が最後まで全部書かなければならないと考えていた点が本文に合いません。イは、莉子さんがすべてを書いたわけではないので誤りです。エは、筆者が紹介カードを書くことをやめたとは書かれていません。

問六

【模範解答】

一年生が本を読みたがる内容は合うが、声をかけたと書かれていないから。

【解説】

選択肢は、一年生が本を読みたいと言った点では本文に合っています。しかし、本文では、筆者は「すぐに声をかけることができず、本棚を直すふりをした」とあります。したがって、「すぐに声をかけて本をすすめた」という部分が本文とずれています。

【自己採点チェック】

- ・「一年生が本を読みたがった」は合うと分かっているか。
- ・「声をかけた」とは書かれていないことが入っているか。
- ・一部だけ合う選択肢に引きずられていないか。

問七

【模範解答】

伝えるとは多くを書くことだけでなく、受け取った感じを相手に渡すことでもあるということ。

【解説】

本文全体では、筆者が本のよさを全部伝えようとして書けなくなるところから始まります。その後、莉子さんの言葉をきっかけに、自分が本から受け取った感じを短い言葉で表せばよいと気づきます。最後には、伝えることは多くを書くことだけではないとまとめられています。

【自己採点チェック】

- ・「多くを書くことだけではない」が入っているか。
- ・「受け取った感じを相手に渡す」が入っているか。
- ・紹介カードの出来事だけを並べた要約になっていないか。

○この章のまとめ

総合問題では、これまでに学んだ読み方を組み合わせて使います。指示語を見つけたら前に戻り、接続語を見つけたら前後の関係を考えます。段落ごとの役割を見

ながら、筆者の中心となる考えや、人物の心情の変化を読み取ります。

記述問題では、設問の聞き方に合わせて答えます。「なぜ」と聞かれたら理由を、「どのようなこと」と聞かれたら内容を、「どのような気持ち」と聞かれたら心情を答えます。選択問題では、一部だけ合っている選択肢や、本文にないことを加えた選択肢に注意します。

大切なのは、どの問いでも本文に戻ることです。なんとなくではなく、本文の言葉を根拠にして考えることが、国語の読解の土台になります。

おわりに

文章を読む力は、一度に身につくものではありません。けれども、本文に戻ることに、言葉と言葉のつながりを見ること、人物の行動から気持ちを考えること、筆者の中心を探すことを続けていくと、少しずつ読み方が変わっていきます。

国語の読解で大切なのは、急いで正解だけを探すことはありません。本文の言葉に立ち止まり、「なぜそう言えるのか」を考えることです。その積み重ねが、自分のことばで考える力につながります。

この冊子で学んだことは、国語の問題だけでなく、人の話を聞くととき、本を読むとき、自分の考えを書くときにも役立ちます。言葉を丁寧に読むことは、世界を丁寧に見ることもつながっているからです。

これから、文章の中の言葉に耳をすませながら、自分の読み方を育てていきましょう。